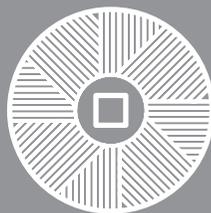
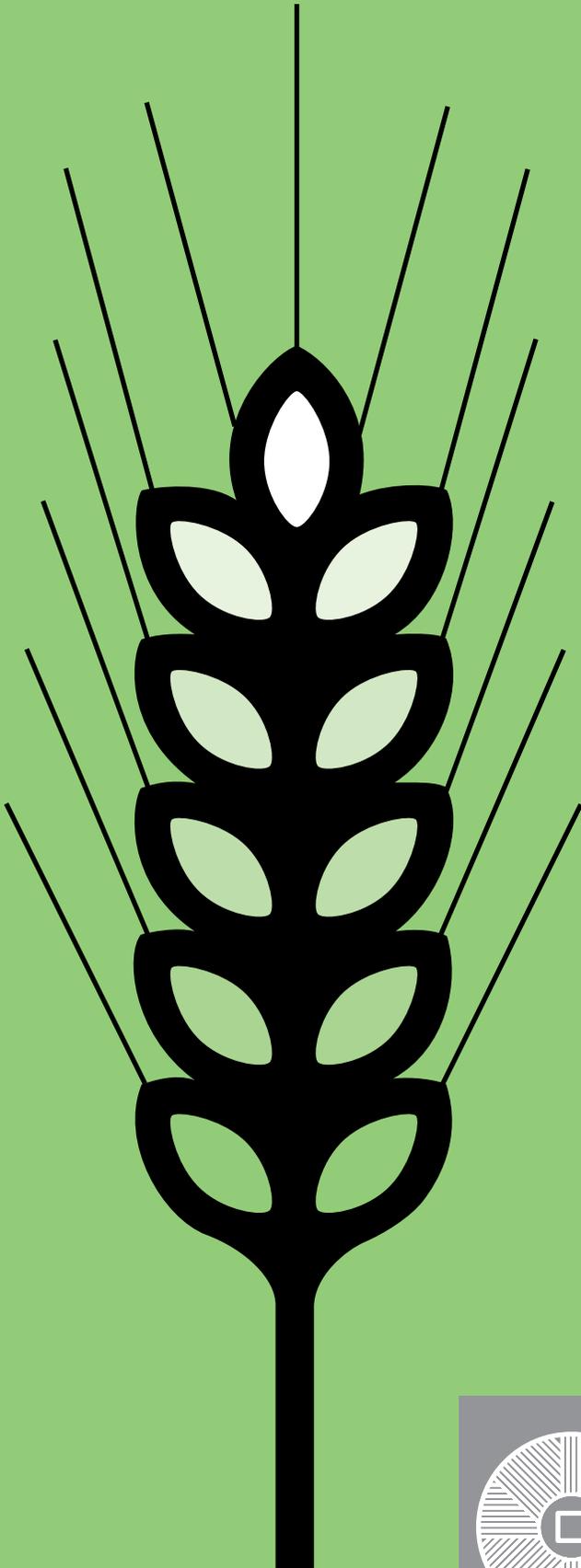


ISSN0913-8838

製粉 振興

2011
No.535
7



財団法人 製粉振興会

★目次

平成24年産小麦の販売予定数量及び
購入希望数量について…………… 3

平成22年産内麦の品質試験結果について…………… 5
製粉協会 理事 製粉研究所 所長 廣 橋 知 幸

FAPRIによる世界の農産物需給予測の概要
～世界小麦需給予測を中心に～…………… 12
農林水産省農林水産政策研究所 主任研究官(食料・環境領域)
小 泉 達 治

製粉と小麦粉のお国ぶり ―その15―
口 シ ア…………… 20
財団法人製粉振興会参与、農学博士 長 尾 精 一

小麦粉のある風景
簡単おいしい「省エネめん」…………… 22
食文家 ひらの あさか

世界の粉界展望…………… 26

業界ニュース…………… 24
国内資料…………… 40
編集後記…………… 46

平成24年産小麦の販売予定数量及び購入希望数量について

平成23年産小麦については、北海道を除く各地ではほぼ収穫を終了している。21年産、22年産と作柄が振るわなかったため23年産には特に期待が寄せられていたところであるが九州地区では収穫期の降雨に見舞われた影響が出ており、その他地域でも当初の販売予定数量を下回る模様である。

また、福島原子力発電所の事故の影響を踏まえて農林水産省は6月17日に「麦の放射性物質調査に関する実需者説明会」を開催し、国内産小麦の安全な流通を確保するため以下の方法で調査することを公表した。

すなわち野菜等が調査対象となっている県のうち

①麦類の出穂・開花時期における空間放射線量率が平常の範囲(小数点第2位を四捨五入して $0.1 \mu S v / h$ 以下となる範囲)を超えた市町村

又は、

②土壤モニタリング調査で、農地土壤中の放射性セシウム濃度が $1000 B q / k g$ 以上であった市町村

で生産された麦類について、カントリーエレベーター又は保管倉庫において全てのロットを対象に当該県が販売前に放射性セシウムの調査を行うことになった。さらに野菜等の調査対象県のうち①②以外の地域において、地域毎に最初のロットを調査した結果が、一定の水準を超過した場合には、その地域においても全てのロットを対象に食品衛生法の暫定規制値である $500 B q / k g$ を超えていないか各県が調査することになっている。これにより国内産小麦については暫定規制値をクリアした小麦のみが流通する仕組みが確保されたことになる。また、上記に基づき実施されている小麦の調査結果が各県で公表されているが、全てが暫定規制値を下回る内容となっている。

平成24年産小麦については、8月の入札に向けて準備が進められているが、現時点では生産者サイドから販売予定数量の提出、実需者サイドから購入希望数量の提出が終了し、各産地において確認された需給のミスマッチ状況を踏まえて地方連絡協議会が開催されているところである。生産者サイドから提出された販売予定数量を見てみると24年産では全国で946千トンが予定されており、23年産が951千トンであったことからすると5千トン減少したことになる。販売予定数量については民間流通が始まった12年産以降毎年増加を続けてきており前年比で減少するのは初めてのことであるが、作付面積は23年産と比較して3千ヘクタールほど増加している。また、北海道・都府県産別で販売予定数量を見ると北海道産は631千トンと前年とほぼ同数になっており、そのうち「きたほなみ」が589千トンと北海道産のシェアの9割強、全国の6割強の数量を占めるに至っている。一方都府県産の販売予定数量は315千トンと23年産の320千トンから5千トン減少している。

実需者サイドからの購入希望数量を見てみると、全国で904千トンと23年産の859千トンを45千トン上回る数字となっている。これを北海道・都府県産別に見ると北海道産の購入希望数量は559千トンと23年産の527千トンを32千トン上回っており、都府県産では345千トンと23年産の333千トンを12千トン上回る数字となっている。さらに全国の販売予定数量と購入希望数量の差を見ると、販売予定数量が購入希望数量を42千トン上回っているものの、22年産、23年産ともその差が91千トンであったことからすると大きく減少したことになる。その理由として、21年産、22年産と2年連続の不作であったため実需者の国内産小麦の需給がタイトになっている影響や、価格の事後調整が実施されたことで使用する際の外国産小麦と国内産小麦の価格の居所がある程度想定出来るようになったため、購入希望数量増に結びついた等が推定される。

次に24年産以降の課題について整理してみると、まず第一点目は地方連絡協議会で確認された産地銘柄別の需給のミスマッチをいかに解消していくかであり、生産者サイドの一層の努力が必要となってこよう。さらに、ここ2年の天候不順等から販売予定数量と収穫時の販売数量が大きく乖離している。生産者の努力だけでは如何ともしがたいことは事実であるものの、国内小麦関連産業は過去国内産小麦の生産量が大幅に増加した時期以降需要拡大のため新商品の開発等様々な努力を行ってきている。実需者との間で合意した販売予定数量に出来る限り近づけられるよう適期の播種、面積の確保、生育期における肥培管理の徹底等を生産サイドに是非お願いしたい。

第二点目は民間流通麦の仕組みの見直しについてである。5月31日に開催された「民間流通連絡協議会」において「東日本大震災による影響に鑑み、24年産民間流通麦の仕組み協議で出された課題を含めて、25年産民間流通麦の仕組みの協議を早期(23年12月を目処)に開始する」とされたとおり24年産の仕組みについては余り議論する時間も取れずに終了した経緯がある。25年産の仕組み協議は本年12月を目処に開始される予定だが、23年産から始まった価格の事後調整における課題整理も含めて、しっかり時間を取って様々な観点から検討を進めていく必要があるだろう。

民間流通の目的は実需者と生産者との意思疎通がスムーズに行われ、実需者のニーズに合った小麦が確実に生産されることで円滑な流通・消費が図られることだと考えている。民間流通が始まった当初と比べると育種に携わった方々・オブザーバーである行政の努力等と相まって生産者と実需者のコミュニケーション及び小麦の品質は一步一步確実に向上してきている。しかし、依然需給のミスマッチが存在しており、それを解消するためにより良い仕組み・方法はないのか、生産者、実需者、双方で知恵を出し合って改善に取り組んでいかねばならない。

平成22年産 内麦の品質試験結果について

廣 橋 知 幸

1. はじめに

関東地区では、すでに23年産小麦の収穫が終わり、いよいよ北海道地区で麦秋を迎える時期となった。製粉協会では、毎年市場に出回った小麦を協会加盟各社にお願いしてサンプリングし、在京4社の協力の元、小麦の品質評価を実施している。本稿では、昨年収穫された小麦を秋から冬の期間にサンプリング、春から理化学試験、製粉試験、製麺試験を実施した結果を基に平成22年産小麦の品質についてその概要を報告する。尚詳細は、「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種)－平成22年産－」(発行平成23年6月製粉協会技術委員会)として小冊子に纏められている。また 今後奨励品種として生産が予想される品種についても若干触れる。

2. 平成22年の生産状況

農林水産統計によると22年産の作付面積は全国で206,900haでここ何年かは大きな変動は

なかった。また地区別では北海道が116,300haで全体の半分を超え、次いで九州の33,400ha、関東21,900haとなっており、この3地区が日本の小麦の主要産地となっている。(表-1)

生産量は、北海道での出穂期から収穫期までの高温や降雨、関東地区では播種の遅れ、生育期の低温、日照不足、九州での生育期の降雨、春先の低温や日照不足などが影響し、不作だった前年より更に少なくなった。検査数量ベースでは、全国で約680,000トン(前年より約127,000トン減)、北海道が460,000トン(前年より約88,000トン減)、九州が92,000トン(前年より16,000トン減) 関東地区が57,000トン(前年より12,000トン減)となっている。また 品質的にも1等比率は、低かった前年の63%を更に下回り、55%となった。北海道は不作だった前年(50%)に引き続き49%だったが、九州地区は前年の96%から大幅に低下し70%となった。(表-2)

表-1 地域別小麦作付面積の推移

(単位：ヘクタール)

地域名	18年産	19年産	20年産	21年産	22年産
北海道	120,500	117,100	115,700	116,300	116,300
東北	8,240	8,160	8,180	8,390	8,340
関東	25,700	22,800	23,000	22,800	21,900
北陸	67	69	68	131	176
東海	14,200	14,300	14,500	14,600	14,500
近畿	8,700	8,810	9,020	9,150	9,110
中国	1,270	1,270	1,370	1,420	1,410
四国	1,700	1,590	1,830	1,770	1,770
九州	37,800	35,600	35,100	33,700	33,400
全国計	218,300	209,700	208,800	208,300	206,900

農林水産統計(農林水産省大臣官房統計部 平成23年3月18日公表)より抜粋

表-2 平成22年産小麦検査成績

	検査数量(トン)	等級比率(%)		
		1等	2等	規格外
北海道	460,041	49.4	24.1	26.4
東北地域	14,436	65.4	24.5	10.1
青森	2,552	58.6	34.8	6.6
岩手	5,983	84.1	14.3	1.5
宮城	4,477	63.5	16.0	20.6
秋田	807	6.7	74.4	18.9
山形	161	2.1	60.3	37.6
福島	457	4.3	82.3	13.4
関東地域	57,181	75.4	21.5	3.1
茨城	9,364	45.8	50.3	3.8
栃木	7,841	92.4	1.4	6.2
群馬	19,988	65.5	31.0	3.4
埼玉	13,639	94.2	4.4	1.4
千葉	1,122	73.1	24.1	2.8
東京				
神奈川	34	8.3	84.2	7.5
山梨	32	67.4	32.1	0.6
長野	5,161	93.1	6.9	0.0
北陸地域	144	65.0	33.7	1.3
新潟	0	0.0	0.0	100.0
富山	63	98.3	1.7	0.0
石川	76	0.1	99.9	0.0
福井	28	82.8	14.3	2.9
東海地域	30,381	60.7	27.5	11.8
静岡	865	77.0	13.9	9.1
岐阜	6,606	62.7	24.8	12.5
愛知	12,271	74.3	17.4	8.3
三重	10,639	42.3	41.9	15.7
近畿地域	18,449	55.4	37.5	7.1
滋賀	14,742	56.8	35.3	7.9
京都	128	17.2	76.4	6.4
大阪				
兵庫	3,429	51.9	44.0	4.1
奈良	150	26.4	73.6	0.0
和歌山				
中国・四国地域	6,857	57.0	38.2	4.7
鳥取				
島根	150	0.0	100.0	0.0
岡山	1,036	80.4	14.1	5.5
広島	134	6.3	68.9	24.8
山口	1,389	73.0	21.7	5.3
徳島	123	61.8	37.8	0.4
香川	3,527	49.5	47.2	3.3
愛媛	497	46.9	44.4	8.7
高知				
九州地域	92,066	69.6	21.8	8.6
福岡	44,256	91.3	2.5	6.1
佐賀	32,055	55.8	30.4	13.8
長崎	1,596	18.6	74.4	7.0
熊本	9,113	11.9	82.2	5.9
大分	5,045	86.7	10.5	2.9
宮崎	3	0.0	0.0	100.0
鹿児島				
沖縄				
計	679,578	55.4	24.3	20.3

農林水産省総合食料局食糧部消費流通課の資料による

3. 主要生産地と主要銘柄について

<北海道>

秋播き小麦では、「ホクシン」は、平成8年産から急激に作付面積を増やし、平成20年産の検査数量は北海道地区の91.4%に達したが、平成21年産では一部が「きたほなみ」へ切り替えられ、82.9%となった。さらに平成22年産ではその切り替えが進み、59.8%となった。一方、「きたほなみ」は平成22年産では32.1%となり、今後は更に「ホクシン」からの切り替えが進み、北海道の主要品種となってくると思われる。他の秋播き小麦としては、平成22年産では、「キタノカオリ」1.4%、「きたもえ」0.7%、「タクネコムギ」0.5%、「ホロシリコムギ」0.5%の順となっている。

一方、春播き小麦では、平成12年産から作付された「春よ恋」が、年々作付面積は増加傾向にあったが、平成22年産の検査数量は4.2%と前年産と同程度であった。また、「ハルユタカ」の検査数量も0.5%と前年産と同程度であった。

<関東>

関東は北海道、九州に次ぐ小麦生産地であるが、検査数量の全国に占める割合は、過去は15～20%あったが年々減少し、平成22年産では8.4%と前年(8.5%)と同程度であった。

県別の検査数量は群馬県が最も多く関東地域全体の35.0%を占め、次いで埼玉県、茨城県、栃木県の順で、この4県で関東全体の88.9%を占めている。

平成22年産の検査数量は、「農林61号」が関東地域の55.7%を占めている。次いで、「つるぴかり」が10.6%、「きぬの波」が8.8%となっている。

主要品種である「農林61号」は新品種「さとのそら」への切り替えが始まったところである。

<九州>

九州は北海道に次ぐ小麦生産地である。平成22年産の全国に占める検査数量の割合は13.5%と前年産(13.3%)と同程度であったが、92,066トンと前年比85.0%となった。

県別の検査数量は福岡県が48.1%を占め、次いで佐賀県が34.8%、次に熊本県、大分県の順になっている。

平成22年産(検査数量)では、「シロガネコムギ」が九州地域の46.1%、「チクゴイズミ」が34.7%を占めている。次いで「ミナミノカオリ」が7.8%、「ニシホナミ」が3.0%、「ニシノカオリ」が4.0%となっており、「ミナミノカオリ」の作付が増加している。

<その他の地区>

東北地区の生産は、岩手県、宮城県、青森県が中心でこの3県で東北地区の88.1%を占めている。平成22年産の作付面積は8,340ha(前年比99.4%)と同程度で、全国に占める割合は4.0%となっている。平成22年産の検査数量は14,436トンで前年比76.2%となった。品種別に(検査数量ベース)最も多いのは「ナンブコムギ」で、東北地区の25.3%を占めており、次いで「シラネコムギ」(24.3%)、「ゆきちから」(22.9%)、「ネバリゴシ」(16.7%)の順になっている。

東海地区の平成22年産の作付面積は14,500haとほぼ前年並みで、全国に占める割合は7.0%となっている。県別では、三重県が5,640ha(前年比101.1%)、愛知県が5,180ha(同95.6%)で、この2県で東海地域の74.6%を占めている。生育期の天候不順のため、検査数量は減少し、30,381トン(前年比80.6%)となっている。作付品種は「農林61号」が主体であるが減少傾向にあり、「イワイノダイチ」が増加している。平成22年産(検査数量ベース)では、「農林61号」が東海地区の

41.0%を占め、次いで「イワイノダイチ」が32.3%となっている。

近畿地区では、滋賀県と兵庫県が生産の中心で、この2県で近畿地区の96.9%を占めている。平成22年産の作付面積は9,110ha(前年比99.6%)とほぼ同程度で、全国に占める割合は4.4%となっている。天候不順の影響で前年より収量は減少し、検査数量も18,449トン(前年比81.6%)となっている。

品種別では(検査数量ベース)が最も多いのは「農林61号」で、近畿地域の58.6%を占めており、次いで「シロガネコムギ」(17.7%)、「ふくさやか」(17.6%)の順になっている。

中国・四国地区の小麦生産の中心は、香川県、山口県、及び岡山県で、この3県で中国・四国両地区の84.2%を占めている。

平成22年産の作付面積は中国・四国両地域合

わせて3,180ha(前年比99.7%)で全国に占める割合は1.5%となっている。この地区も作柄に恵まれず、検査数量は減少し6,857トン(前年比90.9%)となっている。

品種別には(検査数量ベース)「さぬきの夢2000」が中国・四国地域の49.5%を占め、次いで、「シラサギコムギ」(12.6%)、「農林61号」(8.4%)の順になっている。

4. 品質評価まとめ(主要産地の主要品種)

今回の出回り品の品質評価試験の内、22年産の小麦分析値、テストミル60%粉の分析値は、(表-3)、(表-4)、(表-5)に記載している。次に出回り数量の多い品種、今後作付が増加すると思われる品種について、出回り品の品質評価だけでなく、製粉協会製粉研究所が実施した平成22年産小麦の他の品質評価試験の結果も加味

表-3 国内産小麦主要産地主要品種の試験結果一覧表 (平成22年産抜粋)

小麦分析値	標準	北海道			北海道			参考	
	農林61号	ホクシン			きたほなみ			さとのそら	ASW
	群馬	網走地区	十勝地区	其他地区	網走地区	十勝地区	其他地区	群馬	(21年産)
水分(%)	12.8	12.5	12.3	12.4	12.9	12.3	12.4	12.7	9.7
灰分(%)*	1.71	1.66	1.66	1.58	1.53	1.46	1.52	1.56	1.28
たん白(%)*	9.3	11.7	11.6	11.5	11.0	11.2	11.6	8.9	10.2
容積重(g/l)	797	816	793	817	822	816	821	808	804
60%粉分析値									
灰分(%)*	0.41	0.41	0.38	0.40	0.38	0.34	0.36	0.39	0.41
たん白(%)*	7.7	9.6	9.5	9.5	9.4	9.3	9.6	7.3	8.9
C.G.V.**	-2.3	-1.1	-1.1	-1.6	-2.2	-2.1	-1.7	-2.7	-3.3
アミロ粘度(B.U.)	1045	1065	900	1140	950	980	1045	1000	925

*13.5% 水分ベース

**C.G.V. カラーグレーダーバリュー(値)

表-4 国内産小麦主要産地主要品種の試験結果一覧表（平成22年産抜粋）

小麦分析値	関東				九州			
	農林61号	農林61号	つるぴかり	きぬの波	シロガネ コムギ	シロガネ コムギ	チクゴ イズミ	チクゴ イズミ
	茨城	埼玉	群馬	群馬	福岡	佐賀	福岡	佐賀
水分(%)	11.9	12.5	12.8	12.7	13.0	12.6	12.1	12.2
灰分(%)*	1.61	1.58	1.56	1.45	1.55	1.57	1.55	1.57
たん白(%)*	9.4	8.9	8.6	8.2	10.1	9.2	9.0	8.7
容積重(g/l)	808	788	814	811	811	816	817	805
60%粉分析値								
灰分(%)*	0.40	0.39	0.42	0.40	0.39	0.40	0.43	0.40
たん白(%)*	7.9	7.4	7.2	6.8	8.5	8.1	7.2	7.0
C.G.V.	-2.2	-1.6	-2.9	-2.6	-2.3	-2.7	-2.7	-2.6
アミロ粘度(B.U.)	1060	1000	1330	1440	870	925	1110	1100

*13.5% 水分ベース

表-5 国内産小麦主要産地主要品種の試験結果一覧表（平成22年産抜粋）

小麦分析値	東北	東海			東海		近畿	
	ナンブ コムギ 岩手	農林61号 愛知	農林61号 岐阜	農林61号 三重	イワイノ ダイチ 愛知	あやひかり 三重	農林61号 滋賀	シロガネ コムギ 兵庫
水分(%)	11.7	11.4	11.3	11.5	11.8	11.6	11.9	13.2
灰分(%)*	1.52	1.71	1.69	1.60	1.54	1.51	1.61	1.49
たん白(%)*	12.8	8.4	9.1	8.6	7.7	8.7	9.4	8.8
容積重(g/l)	809	813	822	801	819	822	800	793
60%粉分析値								
灰分(%)*	0.38	0.43	0.42	0.42	0.42	0.42	0.40	0.40
たん白(%)*	11.2	7.1	7.6	7.1	6.5	7.5	8.0	7.2
C.G.V.	-0.2	-2.8	-2.6	-2.1	-2.6	-2.1	-1.6	-2.7
アミロ粘度(B.U.)	1020	995	955	940	1040	1215	975	840

*13.5% 水分ベース

して、その特徴をコメントする。

[ホクシン](北海道)

小麦の性状としては、容積重は高い傾向であるが、平成22年産の十勝地区、その他地区は平年に比べてやや低かった。また、たん白含量も高くなりやすく、特に高いものについては粉の色がくすむ傾向が見られる。最近5年間では、たん白含量は1%程度の変動を繰り返している。平

成22年産では過去5年平均に比べ灰分、たん白がやや高い傾向にあり、2年連続同様であった。粉の色調はやや悪かったが、いずれも過去5年平均と同等であった。

製めん適性は、食感の面では群馬県産「農林61号」に比べて、粘弾性、なめらかさの点で優れている傾向にある。平成22年産については、3地区とも粘弾性、なめらかさの評点は高かった

が、めんの色はやや白くくすむ傾向があり、群馬県産「農林61号」と比べくすみが強く21年産と同レベルであった。

[きたほなみ](北海道)

平成22年産の出回り品の試験では、ホクシンに比べ小麦の性状(容積重、灰分、蛋白等)は良好で、粉の色調も黄色味を帯びた明るい色であった。

製めん試験の評価では、「農林61号」と比べて、めんの色は若干明るく黄色みがある。食感においては、粘弾性となめらかさがあり、国産小麦の中では、高く評価された。しかし、地区や年産により色の評点が低下しており、今後の出回り品の品質を注視していく必要がある。

[農林61号](関東)

「農林61号」は北海道、東北、北陸地域を除き、従来から広範囲に栽培されてきた日本の代表的な品種であり、国内産小麦の品質評価の際にめん試験の標準(群馬県産)として用いられているが、製粉適性は劣る傾向にある。

近年は、たん白含量が低い傾向がみられるほか、粉の色調は年産や地域による差が大きい。

平成22年産は、前年に比べ各県産ともにたん白含量は同程度であった。灰分は群馬県産が過去5年の中で最も高かったものの、その他は平年並みであった。

めんの食感は「ホクシン」などと比較し、粘弾性、なめらかさの点で劣る傾向にある。一般に国内産小麦の中では、比較的安定した品質であることは評価できるが、めんの色については必ずしも良好とは言えず、粉の色調と同様に天候の影響を受け年産による差が大きい。平成22年産については、群馬県産、茨城県産ともC.G.V.が過去5年平均と比べやや良かった。

[さとのそら](関東)

22年産から群馬県で本格的に生産が始まった。「農林61号」の後継品種として期待されている品種である。群馬県産農林61号と比べると、原麦試験では、容積重はやや高く、灰分、たん白含量はやや低かった。

60%粉は、C.G.V.値がやや低く、色調も黄色味を帯びている。

製めん試験の評価では、「農林61号」と比べて、めんの色は明るい黄色みがあり、食感は「農林61号」とほぼ同等で、総合的にはやや上回った。

今後、生産が増えるに従い容積重、灰分、たん白量、粉の色調などの推移、地区による品質のバラツキなどを注視していきたい。

[シロガネ](九州)

小麦の性状としては、灰分が低めの傾向があり、たん白含量は国内産小麦の中では平均レベルであるが、グルテンの質がやや弱いため軟質的である。平成22年産のたん白含量は福岡県産が10.1%と前年より高く、佐賀県産が9.2%と前年より低く、出回り品として年産や産地によるバラツキがある。

60%粉の灰分はやや低く、篩抜けが良く、色調もやや良好である。

めんの評価は、平成22年産は各項目とも、群馬県産「農林61号」と同程度の評点であった。

[チクゴイズミ](九州)

アミロース含量が従来の国内産小麦より低い「低アミロース小麦」で、平成7年産より本格的に生産が開始された。たん白含量は低めで、出回り品では年産や産地によるバラツキが大きい。平成22年産のたん白含量は福岡県産では9.0%と平年並みであった。小麦としては粉状質であるため篩抜けが悪く、製粉適性は劣る傾向

がある。

めんは粘りが強い特徴のある食感である。群馬県産「農林61号」と比べ、粘弾性となめらかさの評点は高いが、かたさの点で劣る傾向にあり、平成22年産についても同様の傾向が見られた。ゆで過ぎるとやわらかくなり過ぎる欠点があり、めんは煮くずれしやすい傾向がある。

[その他]

「イワイノダイチ」は、主に東海地区で生産されているが、「農林61号」(群馬)と比較すると粉の色調、麺適性など同等もしくはやや良好と評価されている。

また 北海道の春播き小麦である「春よ恋」は、年産や地区によるたん白や色調のバラツキが見られる。製パン試験では 吸水や作業性に問題はあるものの22年産では比較的良好なパン製品となっている。

5. おわりに

小麦の品質には、その前提条件ともいうべき「食の安心・安全」に関わる要因(例えば健全度や被害粒、カビ等の汚染など)はもとより、一次加工性(製粉適性)や二次加工性(例えば製パン適性・製麺適性など)そしてこれらに影響する分析項目等がある。更に実需者の立場からは均一性(品質にフレの少ない小麦の安定供給)も問題となってくる。製粉企業にとって一定のレベル(幅)の品質の小麦を安定的に確保し、お客様である二次加工ユーザーへ高品質で品質の安定した小麦粉を継続して供給していくことが最大の責務であり、製粉企業はもとより小麦生産者を含む日本の小麦産業の発展に必要不可欠なものと考えている。

例年、このような形で全国の小麦をサンプリングし、分析・二次加工試験を実施し、その結

果をまとめているが、小麦の品質の持つ意味や、サンプリング方法や試験方法を考えるときちんと実際に市場で流通している小麦の品質を反映しているか不安もあるが、本稿が、実需者の皆さんや小麦生産者の皆さんの活動の一助になれば幸いです。

(製粉協会 理事 製粉研究所 所長)

FAPRIによる世界の農産物需給予測の概要 ～世界小麦需給予測を中心に～

小泉 達治

1. はじめに

米国アイオワ州立大学及びミズーリ大学コロンビア校を中心とした大学や研究機関の連合組織である食料農業政策研究所 (Food and Agricultural Policy Research Institute: FAPRI) は、1984年以降、米国下院や連邦政府の委託研究として中期的な世界の食料需給見通しを定期的に公表している。FAPRIによる世界農産物需給予測結果は、米国農務省(USDA)による予測結果と並び、米国では農業関係者に影響を与えている予測として、注目されている。

2011年4月には、世界農産物(小麦、とうもろこし、ソルガム、大麦、大豆、大豆ミール、大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油、ピーナッツ油、砂糖、バイオエタノール、バイオディーゼル、牛肉、豚肉、鶏肉、生乳、バター、チーズ、乳製品等)を対象に世界主要国・地域についての2025/26年度までの需給予測を行った“FAPRI-ISU 2011 World Agricultural Outlook”(以下「2011年FAPRI-ISU 予測」という。)が公表された。これまでのFAPRIによる例年の予測では、アイオワ州立大学及びミズーリ大学コロンビア校等が共同して、世界農産物需給予測を公表してきたが、2011年については、予算の制約等の理由から、アイオワ州立大学(ISU)のみが、世界農産物需給予測を公表した。本稿では、FAPRI-ISUによる世界農産物需給予測のうち、世界小麦需給を中心とした予測結果について紹介したい。

2. 前提条件

2011年FAPRI-ISU予測では、いくつかの条件を前提としている。まず、平年並みの天候や過去の農業技術水準が予測期間中も継続することに加え、農業政策では、「2008年農業法」(Food, Conservation and Energy Act of 2008)が予測期間中、継続されることを見込んでいる。マクロ経済面では、世界における実質経済成長率は2010年から2025年にかけて年平均で3.4%増加し、うち米国経済については、同2.7%増加することを前提としている。また、予測期間中、主要通貨に対する「ドル安」が進行することも前提としている。さらに、世界人口については予測期間中年平均1.0%増加、うち米国は同1.0%増加することを前提としている。さらに、国際原油価格(Refiner Acquisition Cost of Crude Oil)は、2010年の73.1ドル/バレルから2020年には、97.4ドル/バレルに上昇することを前提としている。

3. 世界穀物等需給予測の概要

(1) 世界小麦需給予測の概要

世界の小麦生産量は、2010/11年度の645.5百万MT(メトリックトン)から2025/26年度には740.9百万MTに増加することが予測されている(表1)。そのうち、収穫面積は、2010/11年度の222.7百万haから2025/26年度には224.7百万haに増加し、単収は2010/11年度の2.9MT/haから2025/26年度には3.3MT/haに増加することが予測される。収穫面積は、2010/11年度から2025/26

年度にかけての予測期間中、年平均0.1%の増加に対して、単収は同0.9%増加となっており、生産量の増加には単収の増加が寄与していることがわかる。

世界の小麦需要量は、2010/11年度の669.7百万MTから2025/26年度には739.3百万MTに増加し、このうち、食用・その他用需要量は2010/11年度の542.3百万MTから2025/26年度には597.7百万MTに増加し、飼料用需要量は2010/11年度の127.4百万MTから2025/26年度には141.6百万MTに増加する。貿易量(純輸出货量)については、2010/11年度の94.4百万MTから2025/26年度には136.7百万MTに増加することが予測されている。

貿易量については、予測期間中、年平均2.5%増加し、供給量・需要量に比べて年平均増加率は高く、今後、世界の小麦の貿易市場が拡大していくことを意味している。また、期末在庫量については、2010/11年度の172.0百万MTから2025/26年度には194.5百万MTに増加する。さらに、在庫率については、2010/11年度の25.7%から2025/26年度には26.3%とわずかに増加することが予測されている。

(2) 世界とうもろこし・大豆需給予測の概要

世界のとうもろこし生産量は、2010/11年度

から2025/26年度の予測期間中、年平均1.6%増加し、そのうち、収穫面積は同0.2%増加、単収は同1.4%増加することが予測されている。需要量は同1.4%増加し、貿易量は同2.9%増加、期末在庫量は同0.8%増加する。世界のとうもろこし純輸出货量をみると、最大のとうもろこし輸出国である米国は2010/11年度の49.0百万MTから2025/26年度の102.7百万MTへと大幅に増加することを予測している。一方、世界第2位の輸出国であるアルゼンチンは、2010/11年度の17.5百万MTから2025/26年度の11.9百万MTへと減少する。また、ブラジルは2010/11年度の7.6百万MTから2025/26年度の8.1百万MTとわずかに増加する。以上のように、2011年FAPRI-ISU予測では、世界最大のとうもろこし輸出国である米国は、今後も更に純輸出货量が増大することが予測されている。

世界の大豆生産量は、2010/11年度から2025/26年度の予測期間中、年平均1.4%増加することが予測されている。そのうち、収穫面積は、同0.5%増加、単収は同0.9%増加する。需要量は同1.4%増加し、貿易量は同1.7%増加、期末在庫量は同0.7%増加する。世界の大豆純輸出货量をみると、世界最大の輸出国である米国の純輸出货量は、2010/11年度の42.9百万MTから2025/26年度の43.1百万MTとわずかに増加する

表1 世界の小麦生産量の推移(予測)

	単位	2010/11年度	15/16年度 (予測)	20/21年度 (予測)	25/26年度 (予測)	年平均増加率 (2010/11- 25/26)
生産量	1,000MT	645,532	697,794	721,069	740,902	0.9%
収穫面積	1,000ha	222,712	227,293	226,590	224,680	0.1%
単収	MT/ha	2.9	3.1	3.2	3.3	0.9%
需要量	1,000MT	669,688	696,661	719,918	739,341	0.7%
うち飼料用	1,000MT	127,381	131,251	136,112	141,617	0.7%
うち食用・その他	1,000MT	542,307	565,410	583,807	597,725	0.7%
貿易量	1,000MT	94,432	112,026	124,364	136,656	2.5%
期末在庫量	1,000MT	172,004	183,246	188,861	194,512	0.8%
在庫率	%	25.7	26.3	26.3	26.2	-

資料：FAPRI-ISU(2011)より作成。

ことが予測されている。一方、ブラジルの大豆純輸出量は、2010/11年度の30.1百万MTから2025/26年度の50.3百万MTと増加することが予測されている。特に、2020/21年度以降、ブラジルは米国を抜いて世界最大の大豆純輸出国になることが予測されている。

4. 世界小麦需給予測

(1) 世界小麦生産量

つぎに、世界の小麦生産量予測について、国別・地域別にみていくと、最大の小麦生産地域であるEU27については、2010/11年度から2025/26年度にかけての予測期間中、年平均1.1

%の増加が予測されている(表2)。国としての最大の生産国である中国の生産量は、予測期間中、ほぼ横ばいで推移し、インドの生産量は予測期間中、年平均1.3%増加する。米国の生産量については、2010/11年度の60.1百万MTから2025/26年度には54.9百万MTと予測期間中年平均0.6%減少となる。これは米国の収穫面積が同0.7%減少することに起因している。

ロシアについては、2010年6~8月における干ばつの影響により、2010/11年度は前年度に比べて、生産量が32.7%減少したが(USDA-FAS 2011)、2010/11年度の42.0百万MTから生産量は回復し、2025/26年度には60.8百万MTと予測

表2 世界の小麦生産量の推移(予測)

		単位	2010/11年度	15/16年度 (予測)	20/21年度 (予測)	25/26年度 (予測)	年平均増加率 (2010/11 -25/26)
EU27	生産量	1,000MT	136,258	151,300	155,570	159,993	1.1%
	収穫面積	1,000ha	25,853	28,011	28,060	28,123	0.6%
	単収	MT/ha	5.27	5.40	5.54	5.69	0.5%
中国	生産量	1,000MT	114,500	114,248	114,641	114,514	0.0%
	収穫面積	1,000ha	24,300	23,771	23,404	22,985	-0.4%
	単収	MT/ha	4.71	4.81	4.90	4.98	0.4%
インド	生産量	1,000MT	80,710	86,110	91,980	98,051	1.3%
	収穫面積	1,000ha	28,700	29,943	30,585	31,068	0.5%
	単収	MT/ha	2.81	2.88	3.01	3.16	0.8%
米国	生産量	1,000MT	60,092	55,146	56,131	54,908	-0.6%
	収穫面積	1,000ha	19,263	18,792	18,420	17,362	-0.7%
	単収	MT/ha	3.12	2.93	3.05	3.16	0.1%
ロシア	生産量	1,000MT	42,000	57,479	59,046	60,817	2.5%
	収穫面積	1,000ha	26,700	26,701	26,406	26,160	-0.1%
	単収	MT/ha	1.57	2.15	2.24	2.32	2.6%
豪州	生産量	1,000MT	24,000	24,715	26,487	29,341	1.3%
	収穫面積	1,000ha	13,350	13,667	13,674	14,029	0.3%
	単収	MT/ha	1.80	1.81	1.94	2.09	1.0%
アルゼンチン	生産量	1,000MT	13,500	14,124	15,499	15,306	0.8%
	収穫面積	1,000ha	4,500	4,874	4,933	4,642	0.2%
	単収	MT/ha	3.00	2.90	3.14	3.30	0.6%
カナダ	生産量	1,000MT	22,200	26,870	27,846	28,127	1.6%
	収穫面積	1,000ha	8,120	9,087	9,028	8,788	0.5%
	単収	MT/ha	2.73	2.96	3.08	3.20	1.1%
ウクライナ	生産量	1,000MT	17,000	23,038	22,968	22,841	2.0%
	収穫面積	1,000ha	6,450	6,966	6,811	6,686	0.2%
	単収	MT/ha	2.64	3.31	3.37	3.42	1.7%

資料：FAPRI-ISU(2011)より作成。

期間中、年平均2.5%増加することが予測されている。また、豪州についても予測期間中、年平均1.3%増加することが予測されている。

以上のように、最大の小麦生産地域であるEU27の世界全体に占める生産量のシェアは、2010/11年度の21.1%から2025/26年度には21.6%とわずかに増加するものの、ロシアについては生産量の回復から、生産量のシェアは、2010/11年度の6.5%から2025/26年度には8.2%と増加する。一方、米国については収穫面積の減少から、生産量のシェアは、2010/11年度の9.3%から2025/26年度には7.4%に減少する。

(2) 世界小麦需要量

世界最大の小麦需要地域であるEU27では、

需要量は2010/11年度から2025/26年度の予測期間中、年平均0.9%増加することが予測されている(表3)。一方、中国の需要量は予測期間中、年平均で0.3%減少、インドの需要量は同0.4%増加、ロシアの需要量は同1.1%減少、米国は同0.3%増加となっている。一方で、エジプト、イラン、アルジェリア、モロッコ等の中近東・北アフリカ諸国では増加が予測されている。

さらに、1人あたりの小麦需要量をみてみると、最大の消費国はチュニジアで、2010/11年度の270kgから2025/26年度には309 kgに増加することが予測されている(表4)。また、モロッコ、アルジェリア、エジプト等の北アフリカ諸国でも増加が予測されている。

表3 世界の小麦需要量の推移(予測)

(単位:1,000MT)

		2010/11年度	15/16年度 (予測)	20/21年度 (予測)	25/26年度 (予測)	年平均増加率 (2010/11 -25/26)
EU27	需要量	123,500	133,546	137,654	141,587	0.9%
	うち飼料用	54,500	58,224	58,262	58,876	0.5%
	うち食用・その他	69,000	75,321	79,392	82,711	1.2%
中国	需要量	107,800	111,560	109,026	103,052	-0.3%
	うち飼料用	11,000	14,808	16,676	18,223	3.4%
	うち食用・その他	96,800	96,751	92,351	84,829	-0.9%
インド	需要量	82,435	84,951	86,467	87,250	0.4%
	うち飼料用	100	126	144	160	3.2%
	うち食用・その他	82,335	84,825	86,323	87,090	0.4%
ロシア	需要量	48,000	41,197	40,701	40,706	-1.1%
	うち飼料用	25,000	18,864	18,757	19,272	-1.7%
	うち食用・その他	23,000	22,334	21,944	21,434	-0.5%
米国	需要量	32,005	31,411	32,234	33,724	0.3%
	うち飼料用	4,627	3,022	2,514	2,600	-3.8%
	うち食用・その他	27,379	28,388	29,720	31,124	0.9%
パキスタン	需要量	24,200	25,542	27,475	29,519	1.3%
	うち飼料用	1,000	622	630	640	-2.9%
	うち食用・その他	23,200	24,920	26,845	28,879	1.5%
エジプト	需要量	18,400	20,177	22,222	24,255	1.9%
	うち飼料用	2,600	2,889	3,347	3,762	2.5%
	うち食用・その他	15,800	17,288	18,875	20,493	1.7%
イラン	需要量	16,400	17,199	18,453	19,794	1.3%
	うち飼料用	300	304	310	321	0.5%
	うち食用・その他	16,100	16,895	18,143	19,473	1.3%

資料：FAPRI-ISU(2011)より作成。

表4 世界の1人当たり小麦需要量の推移(予測)

(単位: kg)

	2010/11年度	15/16年度	20/21年度	25/26年度	年平均増加率 (2010/11— 25/26)
チュニジア	270	294	301	309	0.9%
モロッコ	251	249	253	256	0.1%
アルジェリア	250	247	249	253	0.1%
イラン	208	205	208	214	0.2%
ウクライナ	195	205	209	212	0.6%
エジプト	194	193	194	196	0.1%
ロシア	166	165	167	168	0.1%
豪州	142	138	136	135	-0.3%
カナダ	140	149	153	156	0.7%
EU27	138	149	157	163	1.1%
アルゼンチン	125	121	121	122	-0.2%
パキスタン	124	124	124	125	0.0%
米国	88	87	87	87	-0.1%
中国	73	71	67	61	-1.2%
インド	70	67	65	62	-0.8%
メキシコ	53	58	61	64	1.3%

資料: FAPRI-ISU(2011)より作成。

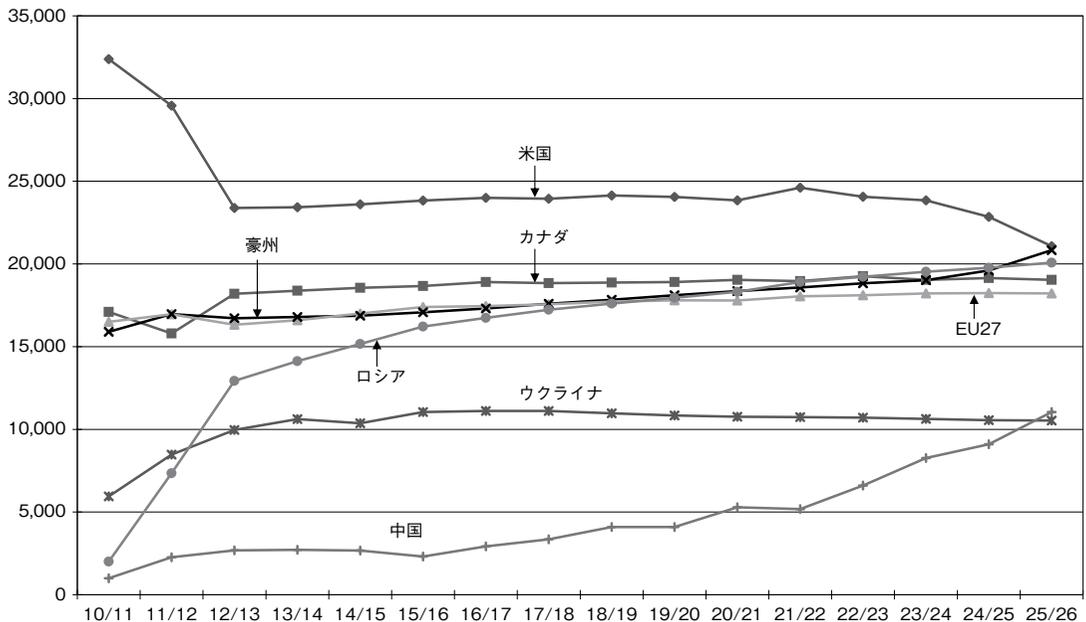
(3) 世界小麦純輸出量予測

世界の小麦の純輸出量についてみると、
米国は世界最大の小麦輸出国であるものの、
豪州は世界最大の小麦輸出国であるものの、
米国の小麦純輸出量は、2010/11年度の32.4百万

MTから2025/26年度には21.1百万MTに減少す
ることが予測されている(図1)。また、豪州の小
麦純輸出量は、2010/11年度の15.9百万MTから
2025/26年度には20.8百万MTに増加する。一

図1 世界小麦純輸出量の推移(予測)

(単位: 1,000MT)



資料: FAPRI-ISU(2011)より作成。

方、ロシアは、天候不順により減産した2010/11年度から生産が回復するため、純輸出量は2010/11年度の2.0百万MTから2012/13年度は12.9百万MTに増加し、2025/26年度には20.1百万MTに増加する。なお、中国の小麦純輸出量は、2010/11年度の1.0百万MTから2025/26年度は11.1百万MTに増加することが予測されている。以上のように、米国は、予測期間中、純輸出量が減少するものの、最大の小麦純輸出国としての地位を保つことが出来る。一方で、豪州、ロシアの純輸出量は増大し、各国とも米国と並ぶ世界最大の小麦純輸出国になることが予測されている。

(4) 世界小麦純輸入量予測

世界の小麦純輸入量をみてみると、最大の輸入国であるエジプトは、2010/11年度の9.8百万MTから2025/26年度には14.6百万MTに増加し、予測期間中、年平均2.7%の増加となること

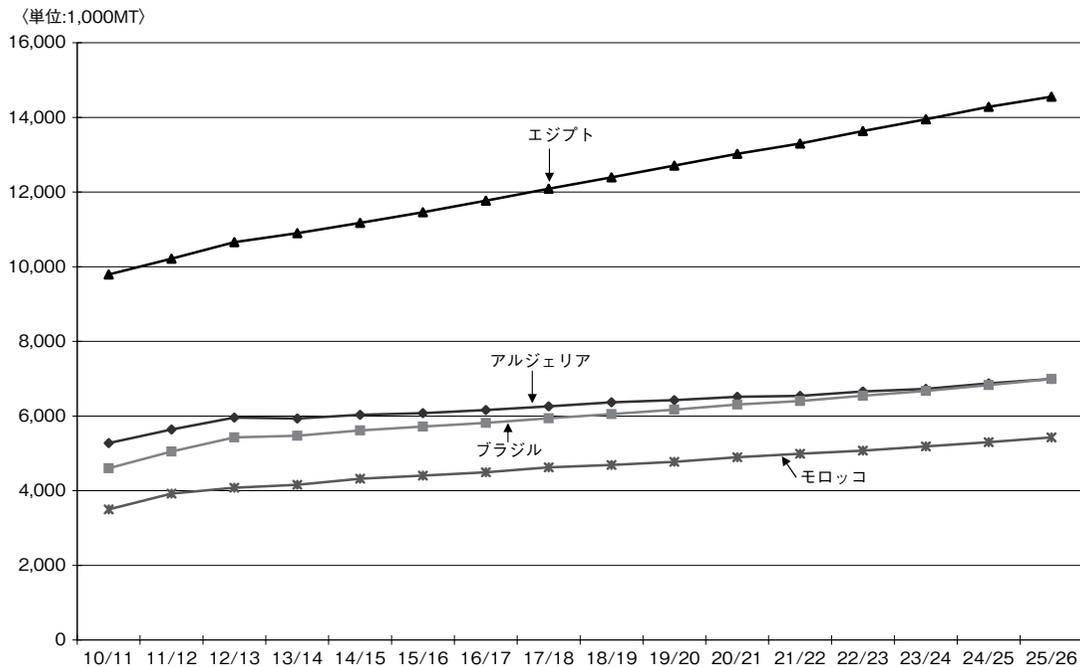
が予測される(図2)。また、アルジェリア、ブラジル及びモロッコについても予測期間中年平均、それぞれ1.9%、2.8%及び3.0%増加となることが予測される。

(5) 国際小麦価格の推移

国際小麦価格(U.S. FOB Gulf price)については、世界需要の増加により、2010/11年度の239.4US\$/MTから2018/19年度には275.9US\$/MTに上昇した後、徐々に下落し、2025/26年度には260.4US\$/MTになることが予測されている(図3)。他の国際価格であるCanadian Wheat Board Price, AWB Limited Export Quote price, European Union Market priceについてもU.S. FOB Gulf priceに連動して推移することが予測されている。

このように、国際小麦価格は変動があるものの、2014/15年度から2025/26年度にかけてほぼ安定して推移していくことが予測されている。

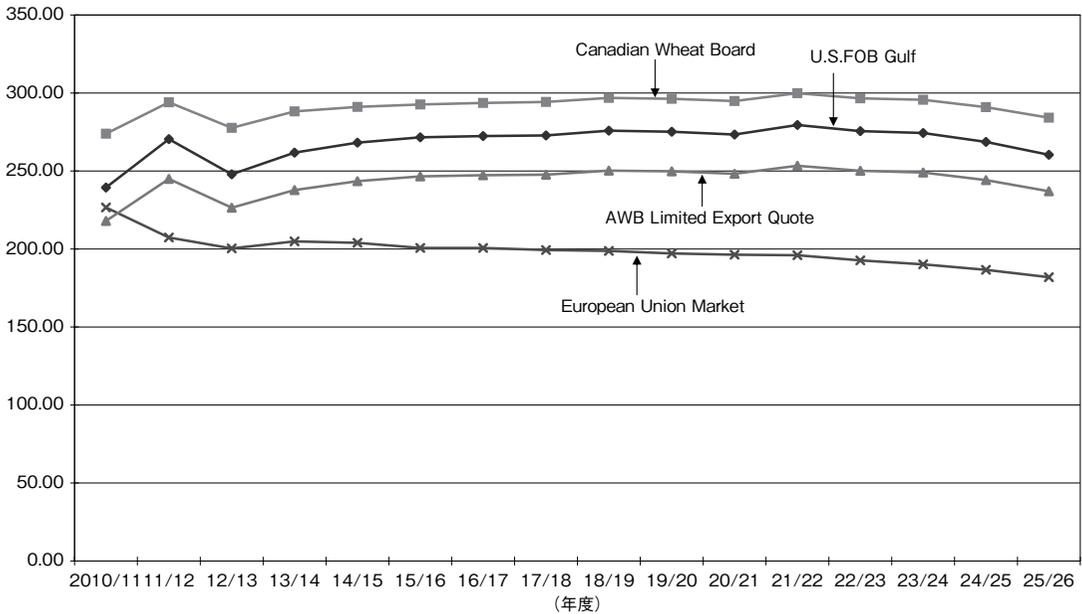
図2 世界小麦純輸入量の推移(予測)



資料：FAPRI-ISU(2011)より作成。

図3 国際小麦価格の推移(予測)

(単位：USドル/トン)



資料：FAPRI-ISU(2011)より作成。

5. おわりに

以上のように、本稿では2011年FAPRI-ISU予測のうち小麦を中心とした予測に焦点を当てて紹介してきた。2011年FAPRI-ISU予測では農畜産物のほかに、米国をはじめ世界主要国・地域における炭素排出量や肥料使用量についての予測結果も公表しており、同予測は従来の農産物需給予測の範囲を超えて、環境モデルとしての性格を有している。

今回の2011年FAPRI-ISU予測のうち世界小麦需給予測について、注目したい点は3点ある。まず、第1に世界の小麦貿易量が予測期間中、年平均で2.5%増加し、2025/26年度には136.7百万MTに達することが予測されている点である。第2に、米国の世界に占める小麦輸出力シェアは予測期間中減少し、2025/26年度には15.4%にまで減少することが予測されている点である。これは、同じ予測で、米国のとうもろこし純輸出力が、2020/21年度に112百万MT、2025/26年

度に129百万MTと大幅に拡大する予測結果とは対照的である。第3に、世界の小麦の純輸入量をみてみると、アジアのみならず北アフリカ諸国の純輸入量が増加する点である。

なお、2011年FAPRI-ISU予測に関しては、留意していかなければならない点がある。第1に、この予測モデルは、これまでの農業政策、過去の農業技術水準等が予測期間中も継続することといった一定の前提条件を踏まえて予測を行っている。特に、平年並みの天候が前提として計測されているため、突然の天候要因による世界農産物需給への影響は考慮されていない点に留意する必要がある。第2に、2011年FAPRI-ISU予測は、米国農務省の需給予測と同様に、農畜産物輸出国の立場から、米国と利害関係にある国・地域における需給に焦点を当てた予測であることを十分に認識する必要がある。このため、2011年FAPRI-ISU予測のように、食料輸出国からみた世界食料需給予測に対して、食料輸

入国の立場から予測を行った農林水産省の世界食料需給予測結果も踏まえて、今後の世界農畜産物需給の未来像を考えていく必要がある。

【引用文献】

FAPRI-ISU (2011), "FAPRI-ISU 2011 World Agricultural Outlook", <http://www.fapri.iastate.edu/outlook/2011/>.

U.S. Department of Agriculture, Foreign Agricultural Service (USDA-FAS) (2011): PS&D, USDA-FAS.

(農林水産省農林水産政策研究所)
(主任研究官(食料・環境領域))



ロシア

★良質な小麦が少ない

年に4,000万トン以上の小麦を生産し、輸出にも力を入れているが、早魃などで生産量が変動するので自由化が進まない。農業機械や肥料の不足、技術力の低下、品種改良の遅れ、生産意欲の低下などの問題点が少しずつ改善されて、生産量は増えてきたが、品質面ではまだ旧ソ連時代のレベルに戻っていない。

小麦は品種、容積重、硝子率、グルテンの量と質、フォーリングナンバー、及び小麦以外の混入物の量によって、超1等と1～5等までの6等級に仕分けされる。上位等級小麦が少ない年が多く、年によっては水分が17%もあることが、製粉工場の悩みの種である。

生産地区は7つに分けられ、中央、南部、ボルガ、及びシベリアの4地区で90～95%が生産される。冬小麦と春小麦が生産され、冬小麦は作付面積が35%程度だが単収が高いので、全生産量の半分は冬小麦である。冬小麦は主にウラル山脈の西の肥沃で雨量が多い土地で、春小麦の約60%はウラル山脈の東で、残りはボルガ盆地で生産される。産地による品質差も大きい。

★小麦粉消費量は多いが、減少傾向

パンは食事で中心的な役割を果たし、年に1人当たり約100キログラムのベーカリー製品を食べる。パンの80～85%が小麦粉で、残りがライ麦粉でつくられる。2002年までは多い年には1,100万トンの小麦粉が生産されていたが、その

後は人口減と1人当たり消費量の減少傾向が見られ、政府統計局によると2008年の小麦粉生産量は前年比15%減の1,010万トン、ベーカリー製品生産量も前年比3.6%減の750万トンだった。製粉会社の努力によって小麦粉輸出が漸増傾向にあり、2008/09年度には67万トンを輸出した。

小麦粉には、ファンシー・ホワイト、ストレート・ホワイト、ダーク(85%歩留り)、及び小麦全粒粉(96%歩留り)があり、ライ麦粉には歩留りが約63、87、及び95%のものがある。市場に出回っているストレート・ホワイトのパン用粉の品質は、小麦の産年によって差が大きく、灰分は乾物量ベースで0.54～0.58%であり、14%水分ベースに換算すると0.46～0.50%なので日本の準1等粉と2等粉の間である。ウエットグルテンが21～27%、沈降値が29～50ミリリットルなので、平均の蛋白質は多くないが、地区によっては高蛋白のものもある。フォーリングナンバーが低いものが出回っている。アスコルビン酸は添加していない。

★製粉会社は多いが、企業間格差が拡大

2007年には354の製粉工場があった。そのうち、ロシア製粉業組合には198社が加盟しており、国全体の小麦粉生産量のほぼ80%に相当する約800万トンを生産している。規模や経営姿勢にかなりの企業間格差があり。小麦粉消費量が減少傾向の中で苦境に陥っている会社も多い。

大手製粉の一つで、シベリア西部アルタイ地

方のバルナウルに本社があるPAVA社は、1999年創業の会社だが、国内68地区に販売し、13か国に輸出して伸びている。3つの製粉工場を持ち、年間小麦挽砕能力は約40万トンで、スイス製の製粉機械を備え、小麦粉、セモリナ、ライ麦粉、パンミックスなどを製造する。輸出に力を入れ、国全体の小麦粉輸出の約20%を取扱っている。中でも、ウズベキスタンとタジキスタンにストレート・ホワイト(パン用)粉やファンシー・ホワイト(ケーキ用)粉を多く輸出する。

★パンは消費減だが多様化。パスタが伸びている

小麦パンはストレート・ホワイト、ダーク、または小麦全粒粉でつくられる。白パンは、小麦粉100に対し、イースト0.8~1.5、食塩1.25~1.5、砂糖0~6を加え、中種生地法でつくることが多い。バンズとロールは小麦粉100に対し、イースト0.7~1.5、食塩1.25~1.5、砂糖0~6、シロップ0~3、マーガリン0~3.5、卵0~0.8、香辛料、及びレーズンなどを加える。

ライ麦パンには、ライ麦全粒粉55~65と小麦全粒粉35~45の混合パン、ポロディノパン(ライ麦全粒粉80、ダーク小麦粉15、黒い麦芽エキス5、シロップ4、砂糖6、食塩1.5、香辛料0.5)、リガパン(白いライ麦粉85、白小麦粉10、色が良い麦芽エキス5、シロップ5、食塩1.5、キャラウェイ種子0.4)、及びミンスクパン(リガパンと似た配合)がある。ライ麦パンの一部は4段階サワー発酵法でつくられていたが、時間が短い1段階発酵が一般的になった。直焼きがほとんどだが、型焼きも少しある。

モスクワ・コラッシュ(ポケット形)、プレツェルタイプのスシュキ、パランキ、パブリキなどは伝統的なパンで、日持ちが良いものが多い。ブルヌイは小麦粉にソバ粉とイース

トを加えた軟らかい生地を薄く延ばして焼いたパンで、バターかサワークリームを塗り、具を包んで食べる。ピロシキは生地の中に料理を詰めて油で揚げたパンである。

ベーカリー製品の売上高は伸びているが、可処分所得が多い新中産階級の出現でプレミアム製品、特にケーキとペストリーが伸びているため、量は減少傾向である。工業生産のパン、特に低価格品の消費は減少し、添加物入り全粒粉パン、チャバタ、その他の外国由来品が伸びている。大都市では、ナッツ入りパン、全粒粉パン、健康志向パンなどが売れている。冷凍パンも伸びが期待され、国内メーカーが市場の2/3を占めるが、プレミアム市場はヨーロッパのメーカーに支配されている。

シェア1%以上の企業はない。フィンランドのFrazerグループが4工場を持ち、スライス包装パンでパン文化を変えつつある。ベーカリー数は年々減少し、2006年には13,800だった。石油ブームや工業化で人口増の地区ではベーカリーが増えているが、地方で閉鎖が多い。平均すると1万人当たりベーカリー数が2以下で、西欧の3~4より少ないので、競争がなく、品質が悪いパンを売る傾向がある。製品を切らずベーカリーも多く、政府は中規模へ誘導しようとするが、資金がなく、銀行の貸出金利も高いので、進まない。

パスタの消費は年率約20%で着実に伸びている。パスタ製品の約75%は普通小麦の粉でつくられているが、デュラム小麦のセモリナからの高価なパスタの需要も拡大している。約94%が国内で製造され、デュラム小麦セモリナを原料にした製品が中心の輸入品は6%程度である。パスタ市場は寡占化状態で、大手のシェアが徐々に拡大している。

(財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一)

簡単おいしい「省エネめん」

ひらの あさか

今回は、おうちにある食材を使って、上手に節電して短時間でできる小麦粉めんの簡単レシピを紹介します。

フライパン1つでパスタ

スパゲッティは大きなお鍋でたっぷりのお湯でゆでるのが王道ですが、いやいやフライパンを使ってつかうくらいの少量の水分で直煮してもできるのです。節水して省エネなパスタを紹介します。

まずは「ナポリタン」。粗引きウインナーは斜めに切る。玉ねぎとにんにくは薄切り、ピーマンは1cm幅に切る。フライパンにオリーブオイルを入れ、にんにく、玉ねぎ、ピーマン、ウインナーの順に炒め、カットトマト（湯むきしたトマトをキューブ状にカットしトマトジュースにつけたもの）と水を加えて沸騰させ、固形チキンコンソメを好みで半分くらい入れたら、スパゲッティを半分に折って入れ、よくかき混ぜながら、指定の時間通りにゆでる。水気をできるだけ飛ばしたら、最後にトマトケチャップを加えて仕上げます。

「きのこベーコンの和風パスタ」ぶなしめじは小房に分ける。生しいたけは薄切り、にんにくと長ねぎの青い部分はみじん切り、ベーコンは1cm幅くらいに切る。フライパン

にオリーブオイルを熱し、にんにく、ベーコン、長ねぎ、きのこを炒め、アンチョビペーストを少々加えさらに炒め、ここへ水、市販のめんつゆを入れて沸騰させてスパゲッティを半分に折って入れゆでる。水気を飛ばしたら、バターを加えてかき混ぜる。器に移して、もみのりを上にとっぷりのせる。

「豆乳と鶏肉と野菜のペンネ」鶏肉むね肉は食べやすい大きさに切り、にんにくはみじん切り、パプリカ赤、あれば黄は5mm幅くらいに切り、玉ねぎは薄切りにする。フライパンでにんにくをはじめ野菜類を炒め、鶏肉を加えてさらに炒める。ここへ水と無調整豆乳を入れて沸騰したら固形チキンコンソメ1個ペンネを入れてゆでる。仕上げに粗引きコショウ、パルミジャーノチーズをおろして加える。なければ粉チーズをふる。

ゆでるだけ「簡単めん」

「サラダトマトひやむぎ」プチトマトは半分に切り、青じそはせん切りに。ひやむぎ、オクラはさっとゆでて冷水にとる。オクラは斜めに切りツナ缶は油をきって軽くしょうゆを加える。ここにトマト、オクラを加えて和え、ひやむぎ、青じそをさらに加えて和える。好みで市販のぼんずを加えてもあっさりおいしい。

「キムチそうめん」にんにくはおろして、長ねぎはみじん切り、これに粉唐辛子としょうゆ、すりごまとごま油を合わせた調味料をつくる。きゅうりと市販の焼き豚はせん切り、白菜キムチは食べやすい大きさに切る。さっとゆでたそうめんは水に放ち水気をよくきり調味料で和える。白菜キムチ、きゅうり、焼き豚をのせてかき混ぜながらいただく。

「なすとひき肉の肉味噌めん」にんにく、しょうが、長ねぎはみじん切り、なすは細かいさいの目切りにする。フライパンにごま油を入れて野菜を炒め、豚ひき肉を入れてさらに炒めて火が通ったら、甜麺醤、市販のストレートめんつゆを入れて肉味噌をつくる。そうめんはさっとゆでて水気をきり、器に移してストレートめんつゆをかけ、粗熱をとった肉味噌をのせてよくかき混ぜながらいただく。

「冷や汁めん」多めにつくってしまった味噌汁があったら、冷やしておく。きゅうりの小口切りはさっと塩をかけてしんなりさせてよく絞る。冷やした味噌汁にきゅうり、豆腐をひと口大に手で崩して入れ、煎りごまの半ずりにしたものと合わせる。ゆでて水気を切ったそうめんはこの冷や汁をかけ、みょうが、青じそのせん切りをのせ、好みに少量の梅干しの果肉を合わせる。

フライパン1つで「簡単焼きそば」

「ねぎとひき肉の焼きそば」ねぎは細い斜め切り、にんにくはみじん切りにする。フライパンにサラダ油を熱して、中華蒸しめんを入れてフライパンをまわしてめんを焼く。こ

こへにんにく、ねぎ、豚ひき肉を加えて炒め合わせ、しょうゆ、オイスターソース、水少々を加えてさらに炒め、ねぎがしんなりしたら火からおろす。

「桜えびとキャベツの焼きそば」フライパンに水を少しはり、ひと口大に切ったキャベツ、桜えび(乾燥)、あればセロリの葉を細かく切って入れ、キャベツに火が通って水気が少なくなったところへごま油を加え、蒸し焼きそばを入れてほぐし、焼くように炒めてナンプラーで味をつける。器に移したら、好みでレモンを絞ってかける。

「レタスと帆立の塩焼きそば」フライパンにサラダ油を熱して、蒸し焼きそばをほぐして入れ炒める。ここへ帆立のフレーク(缶詰)を汁ごと入れて、酒、塩、コショウを加えて炒め、ちぎったレタスをシャリ感が残る程度に炒めたらできあがり。

時短！サラダ用スパゲッティ

短くて細くて、ゆで時間も短いサラダ用スパゲッティでさっとゆでスパゲッティをつくってみましょう。

「しゃぶしゃぶサラダスパ」玉ねぎは薄切りにして水にさらす。パプリカ赤は細切り、ベビーリーフは洗って水をきる。湯を沸かししゃぶしゃぶ用薄切り豚肉に火を通し、冷水にとって水気をきる。同じ湯でサラダ用スパゲッティをゆでて水にさらしてオリーブオイルをからませしておく。市販のごまだれつゆにぼんずを合わせ、豚肉、スパゲッティ、野菜類を和え、器に盛りつける。

(食文家)

業界ニュース

★全粉協第51回通常総会を開催

協同組合全国製粉協議会(会長 志賀弘嗣)は、6月23日(木)東京・KKRホテル東京において第51回通常総会を開催しました。

総会では、平成22年度事業報告及び決算関係並びに平成23年度事業計画及び収支予算等について提案され、原案通り可決承認されました。

理事・監事の改選が行われ、新たに理事として堯天啓行(ホーコク製粉)、監事として木下敬三(木下製粉)が選任された。

また、当協議会元副会長・現理事の古磯製粉

(株)の古磯社長及び星野物産(株)の星野社長は春の褒章で藍綬褒章を受章され、その報告も行いました。

総会終了後、農林水産省、関係団体、(衆)国会議員、報道関係者等多数のご臨席の下、懇親会が開催され、志賀会長のご挨拶、佐々木製粉協会会長等の来賓ご挨拶、鈴木製粉振興会理事長の乾杯の音頭で和やかに懇親会が進められ時間いっぱい交歓が続き、盛会裏に終了しました。

【東京・高橋】

★星野 陽司氏 藍綬褒章を受章



春の褒章において、星野陽司氏(全国乾麺協同組合連合会副会長、星野物産株式会社代表取締役社長)は、永年に亘り乾めん製造業の発展に寄与するとともに、主食である乾めんの安定供給を通じて、国民の食生活の向上に貢献された功績により、栄えある藍綬褒章を受章されました。同氏は全国乾麺協同組合連合会副会長、群馬県製麺工業協同組合理事長をはじめ製粉関係団体の要職を歴任されて、現在も乾めん業界の発展のために活躍しておられます。

【東京・安藤】

★「七夕・そうめんの日」イベント盛況

—天も味方・開始前に長蛇の列—

全国乾麺協同組合連合会(会長茂野昭)では、昭和57年制定した7月7日「七夕・そうめんの日」のイベントとして、今年も全国各地の銘産品のそうめん等を7月6日(製粉会館玄関前)、7日(銀座数寄屋橋公園)にサンプリングを実施した。主催者はサンプリングの気苦労として「毎年のことではあるが、梅雨の真っ只中の「そうめんの

日」のイベント。梅雨入り頃から7月7日の天気は「気になってしかたない。」と話す。今年は「願いが天に届いたのか、7日は朝方まで降っていた雨が、イベント実施を決定する時刻、午前7時頃には上がりホットさせられた。」と屋外イベントの難しさを話していた。

会場となる銀座数寄屋橋公園では、サンプリングの準備も順調に進み、乾めんの風袋を利用しての手作りの七夕飾り、会場を取り巻くよう

に飾られた各地ブランド名を染め抜いた幟も並び、七夕らしく、イベント会場らしい雰囲気が出され、時折、太陽が覗いた時などは短冊が輝き、サンプリング会場を、更に華やかにし、多くの歩行者が足を止めていた。サンプリング開始は正午。正午前には、100人を超える長蛇の列ができ、茂野全乾麵会長の合図で、正午キックリにサンプリングを開始。会場は、梅雨独特の蒸し蒸しする暑さの中、時おり雲間から太陽が覗くなど「そうめん日和」らしくなった。主催者は「全国乾麵協同組合連合会のハッピー」を着用、汗だくでサンプリングを実施していた。サンプリングは、全国各地の銘産品のそうめん等2束と団扇と栞のセット。これを2000セット用意。順調にサンプリングも進み盛会裡に終了。サンプリング終了後、主催者は「そうめんの日」のサンプリングの成功は「毎年のものであるが、大手製粉4社の若手社員の助っ人の力が大きく、サンプリングを成功へと導いている。」と話した。サンプリングは前日の7月6日、製粉会館玄関前でもプレサンプリングを実施。こちらも恒例となっていることから、サンプリング開始15分前頃からサラリーマンを中心に列ができていた。今年は製粉会館の改修工事中「混雑するのではと心配されたが、混乱もなく昨年を上回る長蛇の列ができた。」と主催者を喜ばせた。プレサンプリングも年々好評で、恒例行事となりつつある。サンプリングは、2日間で13,000食(1食：100g)用意。

全国乾麵協同組合連合会では、七夕にそうめんを食べ「願い事が叶う」という習慣づけをしたいと訴え、7月7日を「そうめんの日」と定めている。そこで、七夕・そうめんの日「何故、七夕にそうめんを食べるの・・・」といった質問をサンプリング会場等で受けることが多いという。その由来について、平安の頃から五節句の七夕に



「七夕・そうめんの日」サンプリング於：銀座数寄屋橋公園

そうめんを食べると願い事が叶うといったことから、例えば「疫病にかからない」「ハタ織りが上達する」「縁結び」等と言われ、当時の貴族も庶民もこぞって、「七夕にそうめん」を食べる習慣があったという記述から引用していると解説。『現代にこの「平安」の習慣を、再び呼び起こし、「七夕にそうめん」を食べよう推進している。』と熱っぽく訴えていた。

【東京・杉原】



世界 (1) 2011/12年度の小麦は生産が6億6,600万トンに増えるが、消費がそれを上回る6億7,000

万トンなので、期末在庫は前年度より微減の1億8,500万トン。

国際穀物理事会(IGC)の2011/12年度小麦需給予測を[表1]に示した。生産は前年度比1,600万トン増の6億6,600万トン、消費は1,000万トン増の6億7,000万トンなので、期末在庫は前年度より400万トン少ない1億8,500万トンの見込み。

(IGC-GMR・412/11)

(2) 2011/12年度小麦貿易量は前年度比450万トン増の1億2640万トン。

[表2]はIGC予測による国別小麦貿易量で、2011/12年度総貿易量は前年度比450万トン増の1億2,640万トンである。前年度、近東アジアとサハラ以南アフリカで輸入を減らした国が多かったが、その多くが前々年度並みに戻る。イランはほとんど輸入しない。インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムの輸入は増加傾向である。アメリカの輸出は前年度より少ない3,050万トンだが、オーストラリアは前年度に近い1,750万トン、カナダも1,750万トン輸出する。EUの輸出は減る。ウクライナは1,050万トン、ロシアは950万トン、カザフスタンは680万トン輸出する。中国は200万トン輸入し、100万トン輸出する。

(3) ADM社が「最も評価が高い会社」。

フォーチュン誌は、世界32か国の673の食品製造企業の中からArcher Daniels Midland(ADM)社を「最も評価が高い会社」に選んだ。評価は4,100人以上の会社幹部や有価証券アナリストによって行われ、9つの評価項目中で人事管理、社会的責任、管理の質、財務健全性、製品品質、及び国際競争力の6項目が最高点だった。なお、3年連続の受賞である。

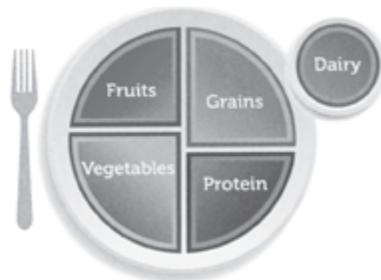
(EB・115/11)



アメリカ (1) 農務省がマイプレート食品アイコンを公表。穀物関係団体はこぞって支持。

農務省は6月2日に図のような「MyPlate食品アイコン」を公表した。これは、「Dietary Guidelines for Americans 2010」を補足するもので、消費者が食べることが望ましい食品の種類別の量を分かりやすく示している。ガイドラインには、平均的なアメリカ人は1日に6サービングの穀物食品を、しかも少なくともその半分は全粒穀物で、残りはエンリッチ穀物を食べるようにと記されている。このアイコンによって穀物食品の重要性が目に見える形で示されたとして、アメリカ製パン協会、穀物食品財団、全米小麦生産者協会、及び北米製粉協会はこぞって支持を表明した。

(MBN・90-8/11)



(2) 2010年の製粉データを一部上方修正。小麦粉生産量は前年比0.6%増、1人当たり消費量は前年と同じ。

3及び4月号に2010年の製粉データ(予測)を紹介したが、合衆国商務省はデータの一部を[表3]のように上方修正した。小麦粉生産量は1,893万トンで前年比0.6%増、小麦挽砕量は2,454万トンで前年比0.6%増である。粉歩留りは前年並みの77.2%、平均稼働率は88.0%、1人当たり小麦粉消費量は前年並みの61.2キログラムである。

(MBN・90-6/11)

(3) 2011-12年度の小麦はハード・ウインター小麦が減産で、期末在庫は減少。

合衆国農務省6月10日発表の小麦需給は[表4]のようで、生産量は前年度比408万トン減で、前年度からの繰越も少ないので、供給量は前年度より836万トン減少する。国内消費は回復するが、輸出は多かった前年度より667万トン少ない。2012年5月末の期末在庫は1870万トンに減少の見込み。[表5]は銘柄別期末在庫量で、主要3銘柄の在庫は減少する。[表6]は銘柄別国内消費量で、ソフト・レッド小麦以外の銘柄は増加する。[表7]は冬小麦の銘柄別生産量で、ハード・ウインターが大幅減だが、ソフト・レッドとソフト・ホワイト小麦の大幅増が予測される。

(MBN・90-8/11、World-Grain.com・June 9,10/11)

(4) 穀物ベース食品会社の健康切り口の可能性はグルテンフリーと全粒粉か?

Nielsen社が調査した過去3年間のスーパーマーケットでの食品の健康表示別売上高は[表8]のようである。5位の全粒穀物が少しずつ増加し、6位のグルテンフリーの増加率が高い。シリ

アル大手2社のゼネラルミルズ社とケロッグ社はすでにグルテンフリー製品に力を入れており、他社も追従の動きを見せている。コナグラ製粉はアマランス、キビ、キノア、モロコシ、テフを原料にした全粒粉でグルテンフリー製品を出した。ADM製粉は白モロコシ粉と白モロコシ全粒粉を多穀物及びグルテンフリー製品向けに発売した。

(MBN・90-7/11)

(5) コナグラ製粉が微生物的に安全な小麦粉の供給システムを発表。

ConAgra製粉(本社はネブラスカ州オマハ)は6月中旬にニューオリンズで開催された食品技術者協会(IFT)の年次大会・展示会で小麦粉のSafeGuard Treatment & Delivery System(安全処理・配送システム)を発表した。製粉、加工、処理後の荷役及び配送で、小麦粉の微生物面の安全性を保つ配慮がされており、タンカーの洗浄、殺菌も万全で、加熱しないで小麦粉を食べても病原性菌の心配がない。一方で、グルテンの機能性、吸水、でんぷん特性、酵素活性、及び味は維持されているという。

(World-Grain.com・June 14/11)



イギリス (1) 保存料無添加トルティーヤの販売が伸び。

Discovery Foods社の保存料無添加の小麦粉トルティーヤの売れ行きが好調で、1.387億ポンドの売上を達成した。原料が国内産小麦粉であることを強調し、原材料に配慮していることを売り物にしている。包装も簡単で機能的なものにした。同社はこの分野では独占的で、国内のメキシコ系食品中のシェアは65%である。

(EB・115/11)

(2) 80年の歴史があるニューカッスルの製粉工場を解体。

スピラー製粉のニューカッスル工場は2007年に製造を中止したが、解体が始まった。イングランド北部のニューカッスルのティン川岸に1930年ごろ建設され、当時、世界で最も高い工場だった。小麦粉供給を通して地域の発展に貢献したが、地域経済の衰退もあって閉鎖に追い込まれた。歴史的建造物の解体を惜しむ声があがっている。

(World-Grain.com・June 7/11)



イタリア 伝統を重視しながら新しい方向を模索するパン業界。

2009年のベーカリー製品売上高は165億ユーロで、前年比2%の増加だった。手づくりベーカリーの製品が80%のシェアを占め、大手ではBarilla社だけが国外にも知られている。工業規模ベーカリーは繊維配合パン及び地方の伝統的なパンやペストリーのような高付加価値包装品に力を入れ、伸びている。春の復活祭のころには、pastiera(米と卵のケーキ)、struffoli(蜂蜜漬けの生地をフライしたもの)、zeppole(クリームをフィリングしたペストリー)などが売れる。クリスマスが近づくと、パネトーネ、甘い特製ケーキ、レーズン、乾燥果物、砂糖漬けかんきつ類の皮などを中に詰めたケーキパンなどが溢れる。パネトーネは11月から新年にかけて、朝食、デザート、夜のスナックに幅広く食べられ、ギフトにも使われる。工業生産のパネトーネはBauli社(パン業界4位、シェア1%強)の独占状態で、パネトーネとpandoroホリデーケーキを80年以上も焼いてきた。2009年にはNestle Italia社からパネトーネの2ブランドを取得し、不景気でクリスマスプレゼントを止める傾向がある中で、パネトーネの売上は15%増

え、1,200万ユーロになった。2009年の売上高は4.25億ユーロだが、その半分以上を季節商品が占めるため、多角化を志向し、第1ステップとして2010年初に工場に1,000万ユーロの投資をした。ミニチョコレートクロワッサン、マフィン、フルーツジャムをフィリングしたクロワッサンなどの新製品を発売した。Bauli社と他の季節商品メーカーは2009年に約100万個のケーキをアメリカに輸出し、イタリアからの移民が多い伝統的な市場以外での可能性を示した。イタリア料理は技術と材料の組合せで、簡単だが何か特別のものを持っている。老化したパンでさえ捨てないで、トースト後に油と調味料を加えて特殊パンのbruschettaに再生する。田舎風パンにトマトベースのトッピングをしたもの、チーズ、マッシュルーム、魚介類のトッピングをしたものも最近では食べられている。「スローフード」の動きがあり、簡便さに加えて、伝統的な配合、新鮮さ、及び口溶けが重要視される傾向にある。Barilla社のプラスチック包装のサンドイッチとスライスパンでは簡便性を志向した。おかずをすぐ包めるように予めカットした平焼きパンも都会の消費者向けである。Barilla社はツイストパン、厚いスライスのブリオシュ、全粒粉ロールパン、包装クロワッサンなどの朝食用製品を拡大している。同社のシェアは6%で、2%以下の2位を大きく引き離している。2002年に18億ユーロで取得したドイツのベーカリーチェーンのKamps社を2010年初に売却し、小売業まで広げて経費がかかった事業を整理できた。Barilla社は冷凍及びパーベイク分野に注力すると思われる。健康は主要なマーケット分野で、高齢化と若者の健康志向の中で有機食品、全粒粉パンなどが注目されている。

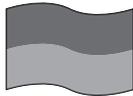
(EB・113/10)



インド 新年度の小麦の支持価格を増額。

政府は、2011年4月の新年度からの小麦の支持価格を4.5%引き上げて、トン当たり11,700ルピー(264米ドル)にする。

(IGC-GMR・411/11)



ウクライナ 穀物輸出を解禁し、関税制に。

7月1日付けで穀物輸出を解禁し、小麦には9%の関税を課すことになった。ただし、トン当たり17ユーロを下回らないという条件付きである。2011年産は平年作の見込みなので、約2,000万トンの穀物を輸出可能だという。

(World-Grain.com・May 31、June 17/11)



オーストラリア 小麦についてのアジア市場の評価は概ね高いが、きょう雑物・異物の増加と品質情報不足への不満も。

穀物研究開発法人(GRDC)が中心になって、アジア市場でのオーストラリア小麦の評価を調査した。オーストラリア小麦は主にめん、ゆでだんご、蒸しパンなどの伝統的な食品に使われ、パン用には北米産の小麦が使われる。白小麦であることによる粉色の白さとめん色の安定性が評価されており、その特性の維持、改良が求められている。一方で、きょう雑物・異物の混入量の増加を懸念する顧客が多い。カナダやアメリカに比べて品質情報や技術援助が少ないという。銘柄や輸出規格が不明瞭だという声もある。AWB社による輸出でなくなったことによる弊害が出ていると思われる。

(World-Grain.com・June 9/11)



カナダ カナダ小麦局の小麦独占販売に終止符か。

カナダ小麦局による小麦と大麦の独占販売システムの是非について議論されてきたが、農務長官でカナダ小麦局担当のGerry Ritz氏によると、2012年8月1日までに独占販売を終息させる法案を提出し、多数与党の力で可決する見込みだという。カナダ小麦局の今後については、関係者の間で議論が進められると思われる。

(MBN・90-8/11)



ケニヤ 小麦の輸入関税を1年間中止。

政府は6月9日付けで、小麦の輸入関税(10%)を今後1年間中止すると発表した。食品価格高騰への対策である。

(IGC-GMR・412/11)



スイス シンジェンタ社がアメリカの遺伝研究設備を拡充。

バーゼルに本社があるSyngenta社は、アメリカのノースカロライナ州の研究団地にある研究設備の隣に7,100万米ドルで新しいバイオテクノロジー研究棟を建設する。作物全般について、気候変動への耐性、早魃のような植物ストレスの克服、生産性と品質の向上などを目的に、遺伝子レベルでの研究を行う。2012年後半には完成の予定。

(World-Grain.com・May 23/11)



ドイツ (1) 2009/10年度の製粉工場数は前年度より32減だが、穀物挽砕量は3.3%増加。

2009/10年度の申告義務がある製粉工場数は270(前年度より32工場減)だが、前年度比3.3%増

の830万トンの穀物を挽砕した。[表9]のように、パン用穀物が790万トン(3.3%増)で、内訳は普通小麦が705万トン(4.5%増)、ライ麦が85万トン(5.5%減)である。その他にデュラム小麦を39.7万トン(3.8%増)挽砕した。穀物別比率は、普通小麦85.0%、ライ麦10.2%、デュラム小麦4.8%である。EU諸国及び第三国からの輸入普通小麦は14.8万トン減の17.3万トンで、挽砕した普通小麦の2.5%に減り、普通小麦中の国内産比率は前年度の95.2%から97.5%に上昇した。1工場平均の年間挽砕量は4,000トン増の30,731トンで、デュラム小麦製粉工場は1工場増えて8工場になり、平均挽砕量は9.2%減の49,612トンになった。旧西ドイツ地区のパン用穀物挽砕量は前年度比3%増の633万トン、旧東ドイツ地区は5%増の157万トンだった。パスタ製造会社が36,800トンのデュラム小麦から72.9%歩留りで26,800トンのセモリナと粉を製造したので、製粉会社のデュラム小麦挽砕量と合わせたデュラム小麦挽砕量は43.4万トンである。2009/10年度の平均歩留りは、普通小麦が79.6% (前年度は80.0%)、ライ麦が89.5% (同88.6%)である。工場の規模別数とパン用穀物挽砕量を[表10]に示した。年間挽砕量が500~5,000トンの小規模工場が158あるが、全パン用穀物挽砕量中のシェアは3.7%に過ぎない。5,000~25,000トンの工場は49工場(前年度は57工場)あり、シェアは7.1% (同8.2%)である。25,000~100,000トンの工場は2つ減って36になり、シェアは22.4% (同23.7%)、100,000~200,000トンの工場は15のままで、シェアは25.3% (同27.1%)、200,000トン以上の大型工場は2つ増えて12になり、全体の41.5% (同36.8%)の328万トンを挽砕した。州別の工場数とパン用穀物挽砕量は[表11]のようで、バイエルンとバーデン・ヴュルテンベルグに製粉工場が多いが、挽砕量はノルトライン・ベストファーレン、ニーダー

ザクセン、プラーメン、及びバイエルンが多い。2009/10年度には前年度比17.7万トン(2.9%)増の640万トンの粉が製造された。内訳は小麦粉560万トン(21.4万トン、4%増)、ライ麦粉76.1万トン(3.6万トン、4.6%減)だった。小麦粉とライ麦粉のタイプ別生産量を[表12]と[表13]に示した。小麦粉では最も多いタイプ550と630が3.6%増加した一方で、タイプ405が0.1%減少した。タイプ812が4.6%、タイプ1700が16.5%、全粒粉と全粒挽割り粉が2.6%伸び、全粒粉や高灰分粉への志向がうかがえる。ライ麦粉では主力の1150が2.8%伸びたが、997が13.1%も減少し、全粒粉や全粒挽割り粉も12.5%減少した。

(MM・148-11/11)

(2) 小麦価格は高値で推移か。

[表14]は国内主要市場平均の5月の小麦、ライ麦、及びふすまの価格である。2月中旬の週に高値を記録したが、その後少し下がったものの高値のままで推移している。1年前に比べると倍以上である。小麦粉とライ麦粉の製粉工場出荷価格指数は[表15]のようで、4月の指数はかなり高レベルであり、前年同月比54%高である。

(MM・148-11/11)



ロシア 穀物輸出を解禁。

政府は7月1日付けで穀物輸出を解禁した。2011年産小麦は平年作の見込みで、輸出余力もあるという。

(World-Grain.com・May 31/11)

[表1] 世界の小麦需給

(百万トン)

	07/08	08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)
生産	609	686	679	650	666
貿易	110	137	128	122	126
消費	605	644	652	660	670
期末在庫	131	172	199	189	185
前年度比	+4	+41	+27	-10	-4
主要輸出国*	48	69	76	67	61

(2011年6月30日現在) *はアルゼンチン、オーストラリア、カナダ、EU、カザフスタン、ロシア、ウクライナ、アメリカ

(IGC)

[表2] 世界の小麦貿易量

(百万トン)

輸入国		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)
ヨーロッパ	アルバニア	0.2	0.3	0.3	0.3
	EU-27	7.9	5.1	4.4	8.0
	ノルウェー	0.3	0.4	0.3	0.3
	スイス	0.4	0.4	0.4	0.4
	その他	0.4	0.3	0.3	0.4
	計	9.2	6.5	5.7	9.3
CIS	アゼルバイジャン	1.6	1.0	1.3	1.2
	ベラルーシ	0.1	T	T	0.1
	グルジア	0.5	0.7	0.7	0.8
	ロシア	0.1	0.1	0.1	0.2
	ウクライナ	0.1	T	T	0.1
	ウズベキスタン	1.5	1.7	1.4	1.6
	その他	2.5	1.9	2.0	1.8
	計	6.4	5.5	5.5	5.8
北・中 アメリカ	キューバ	0.8	0.7	0.7	0.8
	メキシコ	3.3	3.1	3.4	3.4
	アメリカ	3.0	2.2	1.9	2.2
	その他	2.8	2.9	3.1	2.9
	計	10.0	8.8	9.1	9.3
南アメリカ	ボリビア	0.4	0.4	0.3	0.3
	ブラジル	6.3	6.7	6.7	6.6
	チリー	0.9	0.7	0.7	0.8
	コロンビア	1.5	1.4	1.3	1.4
	エクワドル	0.5	0.5	0.5	0.5
	ペルー	1.4	1.6	1.6	1.6
	ベネズエラ	1.4	1.5	1.4	1.5
	その他	0.2	0.1	0.1	0.2
	計	12.6	13.1	12.7	13.0

輸入国		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)	
近東アジア	イラン	8.9	3.0	0.2	0.1	
	イラク	3.9	3.9	3.2	3.6	
	イスラエル	2.0	1.8	1.5	1.8	
	ヨルダン	0.9	0.9	0.9	1.0	
	レバノン	0.5	0.5	0.4	0.5	
	サウジアラビア	1.3	1.8	1.7	1.9	
	シリア	1.5	1.8	1.0	1.3	
	トルコ	3.6	3.3	3.5	3.0	
	UAE	1.4	1.4	1.0	1.1	
	イエメン	2.8	2.7	2.4	2.3	
	その他	0.7	0.7	0.8	0.8	
	計	27.5	21.8	16.6	17.3	
極東アジア	太平洋アジア	中国	0.5	1.4	1.1	2.0
		インドネシア	5.5	5.4	5.6	5.7
		日本	4.9	5.5	5.5	5.3
		北朝鮮	0.1	0.1	0.2	0.1
		韓国	3.3	4.4	4.3	4.3
		マレーシア	1.1	1.1	1.3	1.3
		フィリピン	3.2	3.0	3.1	3.2
		シンガポール	0.3	0.3	0.3	0.3
		台湾	1.1	1.2	1.3	1.3
		タイ	1.1	1.5	1.5	1.6
		ベトナム	1.0	1.9	2.0	2.2
		その他	0.8	0.9	0.8	0.9
		計	22.9	26.9	27.0	28.2
	南アジア	バングラデシュ	2.7	3.5	3.2	2.6
		インド	T	0.3	0.3	0.1
		パキスタン	3.0	0.2	0.2	0.2
		スリランカ	1.0	1.2	1.1	1.1
		その他	2.3	2.2	2.0	1.9
	計	9.0	7.3	6.8	5.9	
計	31.8	34.2	33.8	34.1		
アフリカ	北アフリカ	アルジェリア	6.3	5.1	5.4	5.6
		エジプト	9.8	10.2	10.2	10.3
		リビア	2.1	2.1	1.6	1.5
		モロッコ	3.7	2.3	3.9	3.6
		チュニジア	1.8	1.5	1.9	1.9
	計	23.8	21.3	23.0	22.8	

輸入国		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)
ア フ リ カ	コートジボワール	0.4	0.6	0.5	0.5
	エチオピア	1.0	0.9	0.5	0.8
	ケニア	0.7	1.3	0.8	1.0
	ナイジェリア	3.6	4.0	3.9	4.0
	南アフリカ	1.5	1.6	1.6	1.3
	スーダン	1.7	1.8	1.5	1.7
	その他	5.9	6.2	5.6	5.6
	計	14.7	16.4	14.4	14.9
計		38.5	37.7	37.3	37.7
オセアニア	ニュージーランド	0.3	0.3	0.3	0.3
	その他	0.3	0.4	0.5	0.4
	計	0.6	0.7	0.8	0.7
世界計		136.8	127.7	121.9	126.4

注：年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2011年6月30日現在)

(百万トン)

輸出国	08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)
アルゼンチン	8.5	5.1	7.0	8.0
オーストラリア	13.5	13.7	17.8	17.5
カナダ	18.3	18.2	15.4	17.5
EU-27	24.5	20.8	22.0	15.1
カザフスタン	5.8	8.0	5.2	6.8
ロシア	18.3	18.8	3.8	9.5
ウクライナ	12.9	9.3	3.8	10.5
アメリカ	27.3	23.9	35.5	30.5
中国	0.2	0.4	0.5	1.0
インド	T	—	0.1	0.3
パキスタン	1.4	0.3	1.2	1.3
メキシコ	1.2	0.9	0.7	1.0
シリア	T	T	T	T
トルコ	2.2	4.0	2.6	3.9
その他	2.6	4.1	6.3	3.5
世界計	136.8	127.7	121.9	126.4

注：年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2011年6月30日現在)

(IGC)

[表3] アメリカの製粉データ

年	小麦粉 生産量 (千トン)	小麦 挽砕量 (千トン)	ふすま 生産量 (千トン)	粉 歩留り (%)	小麦粉 日産能力* (千トン)	平均 稼働率 (%)	1人当り 消費量 (kg)
2010	18,933	24,544	6,480	77.2	70.08	88.0	61.2
2009	18,824	24,386	6,470	77.2	69.58	88.1	61.2
2008	18,883	24,711	6,753	76.4	69.45	87.6	61.9
2007	18,998	25,141	7,103	75.6	69.63	89.1	62.6
2006	18,138	24,345	6,916	75.2	68.31	87.8	61.6
2005	17,916	24,061	6,826	74.5	67.68	86.2	60.8
2004	17,868	23,842	6,764	74.9	67.70	85.5	61.0
2003	17,972	24,200	7,029	74.3	68.59	85.5	62.1
2002	17,904	24,206	6,893	74.0	68.03	86.5	62.1
2001	18,349	24,876	7,275	73.8	69.45	86.1	64.0
2000	19,109	25,715	7,374	74.3	69.43	89.2	66.4
1999	18,687	24,978	7,040	74.8	69.03	88.2	65.3

* 年末のデータ

(USDC、MBN)

[表4] アメリカの小麦需給

(千トン)

項目		2011-12	2010-11	2009-10	2008-09	
供給	前年度からの繰越	22,017	26,562	17,881	8,328	
	生産	56,009	60,092	60,364	68,012	
	輸入	2,994	2,722	3,239	3,456	
	計	81,021	89,376	81,456	79,796	
需要	国内消費	食用	25,719	25,310	25,011	25,229
		種子用	2,041	2,177	1,878	2,123
		飼料用	5,987	4,627	4,028	6,940
	計	33,747	32,114	30,944	34,292	
	輸出	28,576	35,244	23,977	27,624	
	計	62,323	67,358	54,921	61,915	
期末在庫		18,697	22,017	26,562	17,881	

(2011年6月10日現在)

(USDA)

[表5] アメリカの小麦銘柄別期末繰越在庫量

(千トン)

銘柄	2010-11	2009-10	2008-09	2007-08
ハード・ウインター	8,981	10,478	6,913	3,756
ソフト・レッド	4,300	6,586	4,654	1,497
ハード・スプリング	5,552	6,368	3,865	1,851
ホワイト	2,123	2,177	1,742	1,007
デュラム	1,061	953	680	218
計	22,017	26,562	17,881	8,328

(2011年6月10日現在)

(USDA)

[表6] アメリカの小麦銘柄別国内消費量

(千トン)

銘柄	2010-11	2009-10	2008-09	2007-08
ハード・ウインター	12,492	11,458	12,846	12,138
ソフト・レッド	6,559	6,967	9,036	5,742
ハード・スプリング	7,784	7,675	7,430	6,586
ホワイト	2,749	2,368	2,722	1,851
デュラム	2,531	2,449	2,204	2,286
計	32,114	30,944	34,292	33,965

(2011年6月10日現在)

(USDA)

[表7] アメリカ産冬小麦の銘柄別生産量

(千トン)

銘柄	2011	2010	2009	2008	2007	最高(年)	最低(年)
ハード・ウインター	21,143	27,715	25,037	28,160	26,006	34,036(1984)	16,883(2002)
ソフト・レッド	11,805	6,472	10,995	16,699	9,581	18,453(1981)	7,959(1986)
ハード・スプリング	6,518	6,235	5,462	5,962	5,216	8,354(1981)	3,964(1991)
うち ハード・ホワイト	315	367	497	618	584		
ソフト・ホワイト	6,204	5,868	4,965	5,344	4,632		

(2011年6月10日現在)

(USDA)

[表8] アメリカのスーパーマーケットでの食品の健康表示別売上高

(ドル)

	2011年4月16日 までの52週間	2010年4月17日 までの52週間	2009年4月18日 までの52週間
自然	22,645,451,004	20,840,624,018	20,377,647,864
特定の脂肪を含まない	14,230,375,233	13,604,777,784	13,617,957,429
カロリー減	10,358,609,976	10,326,079,500	9,970,377,855
低塩・低ナトリウム	9,964,333,160	9,731,999,344	9,679,940,148
全粒穀物	8,755,785,460	8,593,849,755	8,631,954,001
グルテンを含まない	4,882,233,554	4,305,012,910	3,910,353,376
繊維	4,222,226,851	4,102,513,647	3,810,336,376
高果糖コーンシロップを含まない	1,982,935,277	1,624,242,101	1,224,106,820
オメガ-3を含む	1,820,402,609	1,643,976,650	1,398,337,327
多穀物	1,815,274,691	1,822,207,756	1,806,414,126
大豆	1,363,295,999	1,389,555,745	1,452,689,972

(The Nielsen Co.)

[表9] ドイツの穀物挽砕量

(千トン)

穀物の種類		2009/10年度	2008/09年度	前年度比(%)
パン用穀物	普通小麦	7,050	6,750	4.4
	ライ麦	850	900	-5.6
	計	7,900	7,650	3.3
デュラム小麦		397	382	3.8
穀物計		8,300	8,026	3.3

(MM)

[表10] ドイツの製粉工場の規模別数とパン用穀物挽砕量 (2009/10年度)

規模(トン)	工場数		パン用穀物挽砕量	
	数	%	千トン	%
500～5,000	158	58.5	292	3.7
5,000～10,000	49	18.1	152	1.9
10,000～25,000			411	5.2
25,000～50,000	18	6.7	573	7.3
50,000～100,000	18	6.7	1,193	15.1
100,000～200,000	15	5.6	1,999	25.3
200,000以上	12	4.4	3,280	41.5
計	270	100.0	7,900	100.0

(MM)

[表11] ドイツの州別製粉工場数とパン用穀物挽砕量 (2009/10年度)

地区	州または都市	工場数	挽砕量 (千トン)
旧西ドイツ	バーデン・ヴュルテンベルグ	68	858
	バイエルン	77	1,307
	ラインラント・プファルツ／ザールラント	19	423
	ヘッセン	13	295
	ノルトライン・ベストファーレン	24	1,728
	ニーダーザクセン／ブレーメン	18	1,445
	シュレスビヒ・ホルシュタイン／ハンブルグ	6	273
旧東ドイツ	チューリンゲン	12	312
	ザクセン	20	270
	ブランデンブルグ／ベルリン／メクレンブルグ・ ボルボメルン／ザクセン・アンハルト	13	990
合 計		270	7,900

(年間挽砕量が500トン未満の工場を除く)

(MM)

[表12] ドイツの小麦粉タイプ別生産量(2009/10年度)

小麦粉タイプ	生産量		
	千トン	前年度比	
		千トン	%
550/630	3,900	139	3.6
405	630	-1	-0.1
1050	288	7	2.5
812	188	8	4.6
1700		3	16.5
全粒粉 全粒挽割り粉		3	2.6
計	5,600	214	4.0

(1700は挽割り粉)

(MM)

[表13] ドイツのライ麦粉タイプ別生産量(2009/10年度)

ライ麦粉タイプ	生産量	
	千トン	前年度比(%)
815	18	6.4
997	150	-13.1
1150	344	2.8
1370	67	11.5
1740	8	-7.4
1800	79	-0.7
全粒粉 全粒挽割り粉	100	-12.5
計	761	-4.6

(生産量の四捨五入の関係で合計と若干差がある) (MM)

[表14] ドイツの小麦・ライ麦・ふすまの価格

品 目	2011年				2010年
	5/16～5/22		5/9～5/15		5/17～5/23
	Euro/t	市場数	Euro/t	市場数	Euro/t
Aグループ 高品質小麦	272.86	7	273.79	7	130.46
パン用小麦	260.19	8	259.25	8	125.41
パン用ライ麦	231.86	7	233.93	7	118.71
飼料用小麦	232.81	8	233.56	8	123.44
小麦ふすま(バラ)	142.07	7	135.71	7	81.13

(MM)

[表15] ドイツの小麦粉・ライ麦粉の製粉工場出荷価格指数

品 目	2011年4月	2010年3月	2010年4月
小麦粉	149.9	148.7	97.1
ライ麦粉	155.8	155.4	99.3

(ドイツ統計局)

(単位：千トン、前年比%)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向(23年度)

年 月	玄			麦			小			粉		
	買入数量	対前年比	加工量	対前年比	月末在庫	対前年比	生産量	対前年比	販売量	対前年比	月末在庫	対前年比
平成17年度	6,039	98.3	6,030	98.9	461	102.2	4,623	99.1	4,615	99.0	282	102.9
平成18年度	6,271	103.8	5,982	99.2	751	162.9	4,599	99.5	4,594	99.5	287	101.8
平成19年度	5,901	94.1	6,037	100.9	616	82.0	4,684	101.8	4,677	101.8	293	102.1
平成20年度	5,748	97.4	5,848	96.9	517	83.9	4,564	97.4	4,575	97.8	282	96.3
平成21年度	5,802	101.1	5,916	101.4	405	78.2	4,612	101.1	4,620	101.0	274	97.1
平成22年度	6,559	113.0	6,041	102.1	924	228.1	4,725	102.4	4,690	101.5	308	112.6
22.4	505	116.8	543	102.0	368	87.7	428	104.1	425	103.8	277	97.6
5	534	105.4	489	100.6	413	93.9	385	101.2	372	99.5	290	99.9
6	466	105.9	493	102.2	386	97.1	388	104.5	388	102.0	289	103.1
7	524	97.7	490	100.5	419	94.1	382	100.8	385	100.3	286	103.8
期 計	2,029	105.9	2,016	101.3	1,582	102.7	1,570	101.5	1,537	100.2	290	104.3
8	514	114.1	473	101.8	460	106.7	366	100.4	362	100.0	286	106.1
9	1,278	276.8	492	101.2	1,247	306.3	382	100.9	386	99.7	298	106.9
10	235	44.7	501	96.5	980	237.4	394	97.2	382	96.4	296	105.7
11	509	99.9	517	104.7	973	226.8	404	104.0	407	104.9	296	105.7
期 計	2,536	130.2	1,983	101.0	1,547	100.6	1,547	100.6	1,537	100.2	289	105.6
12	479	88.9	549	102.6	902	208.7	428	102.7	435	102.8	304	102.2
23.1	426	95.6	461	100.0	867	208.0	361	99.7	346	102.3	309	105.9
2	564	127.0	479	106.4	952	231.8	373	106.1	368	103.1	308	112.6
3	524	102.7	552	107.0	924	228.1	434	107.6	435	103.1	308	112.6
期 計	1,993	102.8	2,042	104.0	1,612	105.1	1,612	105.1	1,599	103.8	315	114.0
23.4	534	105.8	561	103.3	898	244.0	441	103.1	434	102.2	320	110.4
5	470	88.0	512	104.7	855	207.3	394	102.5	390	104.9		
6												
7												
期 計												
8												
9												
10												
11												
期 計												
12												
24.1												
2												
3												
期 計												
年度計												

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買受分(19年度から)、大臣証明制度による輸出入見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出入を除いた数量である。
 2. 「製粉・精麦・麦茶工場需給実績報告」(総合食料局食糧貿易課)による。
 3. 四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。
 4. 23年5月分は速報のため、選って訂正がある場合があります。

小麦加工食品の輸出の推移

(単位：トン、金額：千円)

区 分 年 月	小麦粉、小麦(ひき割、ミール、ペレット)			小麦粉調製品(ケーキ、ミックスを含む)			マカロニおよびスパゲッティ			うどんおよびそうめん		
	数 量	前 年 増 減 率	金 額	数 量	前 年 増 減 率	金 額	数 量	前 年 増 減 率	金 額	数 量	前 年 増 減 率	金 額
平成15年	116	-0.4	9,272,192	1,545	5.9	441,651	410	62.0	64,642	6,582	-9.9	1,748,517
16	108	-4.5	8,332,834	1,791	16.0	558,959	328	-20.0	45,188	7,719	17.3	2,008,637
17	110	-4.8	8,048,049	2,317	29.4	744,439	1,054	221.3	110,260	7,863	1.9	2,062,502
18	116	0.0	7,895,261	2,442	5.4	797,965	1,196	13.4	126,174	10,065	28.0	2,476,428
19	118	-11.9	7,725,611	3,151	29.1	1,043,144	1,150	-3.8	140,800	12,561	24.8	2,988,513
20	104	-26.8	8,338,085	3,377	7.1	1,242,742	743	-35.4	150,112	12,517	-0.3	3,227,623
21	93.5	-0.9	5,414,482	3,113	-7.8	1,150,484	822	10.6	150,825	11,947	-4.6	3,124,772
22	88	5.9	5,860,022	3,574	14.8	1,256,700	770	-6.3	139,835	12,492	4.6	3,214,545
23年1月	83	-25.9	344,882	155	46.5	58,706	48	-29.4	5,594	970	-3.8	229,675
2	82	20.51	587,770	188	-37.1	63,141	60	37.1	9,860	927	6.3	247,586
3	82	17.53	501,683	210	-9.7	92,496	62	38.4	9,859	995	-5.7	265,137
4	83	11.06	402,848	175	-55.2	57,071	36	-47.1	7,482	887	-28.4	223,849
5	82	13.81	431,416	126	-55.0	54,851	49	-8.6	9,358	910	-5.0	234,453
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
23年1~12月計	73,341	-11.4	2,268,399	855	-42.8	326,265	256	-8.4	42,123	4,689	-8.6	1,200,700
区 分 年 月	ビスケット(スイート)			その他のベーカリー製品等			インスタントラーメン					
	数 量	前 年 増 減 率	金 額	数 量	前 年 増 減 率	金 額	数 量	前 年 増 減 率	金 額			
平成15年	1,052	10.3	868,674	8,220	0.9	6,435,115	8,743	-3.4	2,967,360			
16	769	-26.9	720,628	9,328	13.5	7,104,285	8,288	-5.2	2,847,158			
17	719	-6.6	762,779	12,274	31.6	8,722,215	8,445	1.9	3,214,048			
18	762	6.1	804,131	13,120	6.9	9,755,783	9,091	7.7	3,586,187			
19	1,098	44.2	1,133,758	14,688	12.0	11,536,637	9,200	1.2	3,645,447			
20	1,198	9.1	1,270,762	14,672	-0.1	12,115,107	8,120	-11.7	3,507,616			
21	886	-26.1	993,506	11,972	-18.4	10,258,866	6,181	-23.9	2,919,649			
22	88	10.0	1,067,436	13,343	11.5	11,770,935	5,981	-3.2	2,825,812			
23年1月	74	-29.7	71,186	860	-28.7	100,076	411	-8.8	185,743			
2	82	-15.9	63,905	1,030	10.6	840,462	431	-9.3	183,226			
3	82	-6.7	68,876	1,025	9.7	892,087	434	-14.8	185,924			
4	83	-4.9	66,292	832	-18.0	674,195	285	-53.5	102,682			
5	82	-52.6	66,292	639	-41.1	569,502	376	-21.4	155,597			
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
23年1~12月計	288	-22.4	302,626	4,386	-15.2	3,076,322	1,938	-23.3	813,172			

(注) ①財務省貿易統計(全国分>品別国別表>輸出>月次)による。
 ②その他のベーカリー製品等は、スイートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスバーバー等をいう。

国際価格の推移

(単位：トン当たりドル、()内はブッシェル当たりドル)

品名	年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
小麦 (シカゴ・SRW小麦No.2、 期近もの)	2003	(3.13)	(3.34)	(3.00)	(2.86)	(3.22)	(3.16)	(3.15)	(3.79)	(3.56)	(3.35)	(4.06)	(3.87)
		115	123	110	105	118	116	116	116	139	131	123	149
	2004	(3.86)	(3.75)	(3.73)	(3.83)	(3.54)	(3.33)	(3.03)	(3.37)	(3.03)	(3.19)	(3.06)	(3.03)
		142	138	137	141	130	129	129	122	111	124	117	112
	2005	(2.98)	(3.00)	(3.68)	(3.09)	(3.06)	(3.23)	(3.16)	(3.49)	(3.16)	(3.23)	(3.39)	(3.07)
		109	110	135	114	113	119	116	128	116	119	125	113
	2006	(3.29)	(3.52)	(3.62)	(3.50)	(4.00)	(3.62)	(3.77)	(3.66)	(3.77)	(3.93)	(5.43)	(4.82)
		121	129	133	129	147	133	134	134	138	144	199	177
	2007	(4.64)	(4.53)	(4.61)	(4.88)	(4.97)	(6.07)	(6.97)	(6.02)	(6.97)	(8.46)	(9.53)	(7.78)
		170	167	169	179	183	223	223	221	256	311	350	282
	2008	(9.32)	(9.43)	(10.93)	(8.96)	(7.76)	(8.77)	(8.11)	(8.11)	(8.25)	(7.27)	(5.56)	(5.34)
		342	378	426	329	284	322	298	298	303	267	204	196
2009	(5.69)	(5.36)	(5.44)	(5.22)	(5.78)	(5.75)	(5.35)	(5.35)	(4.82)	(4.71)	(5.05)	(5.39)	
	209	197	200	192	212	211	196	196	177	173	186	198	
2010	(5.10)	(4.87)	(4.79)	(4.91)	(4.72)	(4.52)	(4.52)	(5.96)	(7.03)	(7.27)	(7.05)	(6.73)	
	187	179	176	180	173	166	166	219	258	267	259	247	
2011	(7.73)	(8.40)	(6.68)	(7.44)	(7.36)	(6.73)							
	284	309	245	273	271	247							
2003	(2.86)	(2.36)	(2.33)	(2.39)	(2.46)	(2.39)	(2.39)	(2.15)	(2.20)	(2.29)	(2.26)	(2.37)	
	93	93	92	94	97	94	94	85	87	90	89	93	
2004	(2.67)	(2.83)	(3.02)	(3.16)	(3.00)	(2.86)	(2.86)	(2.36)	(2.25)	(2.14)	(2.06)	(1.99)	
	105	112	119	125	118	113	113	93	89	84	81	78	
2005	(2.00)	(2.00)	(2.14)	(2.08)	(2.08)	(2.22)	(2.22)	(2.37)	(2.15)	(2.04)	(2.02)	(1.93)	
	79	79	84	82	82	87	87	93	85	80	80	76	
2006	(2.13)	(2.23)	(2.24)	(2.37)	(2.45)	(2.38)	(2.38)	(2.44)	(2.30)	(2.42)	(3.03)	(3.56)	
	84	88	88	93	97	94	94	96	91	95	119	140	
2007	(3.91)	(4.11)	(4.02)	(3.62)	(3.70)	(3.81)	(3.81)	(3.26)	(3.31)	(3.51)	(3.69)	(3.69)	
	154	162	158	142	146	150	150	128	130	138	145	145	
2008	(5.08)	(5.01)	(5.56)	(6.06)	(5.91)	(7.33)	(6.47)	(6.47)	(5.30)	(5.62)	(3.88)	(3.86)	
	200	203	215	239	236	288	255	255	209	221	153	152	
2009	(3.65)	(3.63)	(3.92)	(3.94)	(4.17)	(4.06)	(3.30)	(3.30)	(3.19)	(3.47)	(3.73)	(3.91)	
	144	143	154	155	164	160	130	130	126	136	147	154	
2010	(3.72)	(3.62)	(3.63)	(3.64)	(3.63)	(3.54)	(3.92)	(3.92)	(4.12)	(4.95)	(5.63)	(5.56)	
	146	142	143	143	143	139	154	154	162	195	222	219	
2011	(6.49)	(6.91)	(6.36)	(7.42)	(6.97)	(7.02)							
	255	272	250	292	275	276							

(注) 1. 小麦は、シカゴ相場による月央の終値である(2011年6月分は6月16日)。
2. とうもろこしはシカゴ相場による月平均価格である。

輸入食糧小麦の入札結果(港湾諸経費を除く)の概要

(単位：トン、円/ドル当たり)

入札月および積月		平成22年9月入札分 (積月：11月積み)			平成22年10月入札分 (積月：12月積み)			平成22年11月入札分 (積月：1月積み)			平成22年12月入札分 (積月：2月積み)			平成23年1月及び2月入札分 (積月：3月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格
アメリカ	WW	54,601	28,240	29,652	50,708	25,586	26,865	46,362	29,042	30,494	77,443	29,266	30,729	57,394	29,875	31,369
	SH	72,494	30,864	32,407	59,887	27,895	29,290	71,494	32,941	34,588	100,893	34,516	36,242	53,793	33,782	35,471
	DNS	134,541	36,520	38,346	112,650	33,979	35,678	136,094	36,145	37,952	171,845	41,567	43,645	123,231	40,717	42,753
	小計	261,636	33,225	34,886	223,245	30,440	31,992	253,950	33,946	35,643	350,181	36,815	38,656	234,418	36,471	38,295
カナダ	1CW	68,773	38,584	40,513	63,354	36,829	38,670	78,109	36,841	38,683	103,743	43,124	45,280	71,286	41,875	43,969
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オーストラリア	小計	68,773	38,584	40,513	63,354	36,829	38,670	78,109	36,841	38,683	103,743	43,124	45,280	71,286	41,875	43,969
	ASW	84,716	32,730	34,367	77,951	34,722	36,458	97,508	35,474	37,248	136,106	35,656	37,439	61,603	35,826	37,617
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	84,716	32,730	34,367	77,951	34,722	36,458	97,508	35,474	37,248	136,106	35,656	37,439	61,603	35,826	37,617	
計		415,125	34,012	35,713	364,550	32,466	34,089	429,567	34,820	36,561	590,030	37,657	39,540	367,307	37,412	39,283

入札月および積月		平成23年2月入札分 (積月：4月積み)			平成23年3月入札分 (積月：5月積み)			平成23年4月入札分 (積月：6月積み)			平成23年5月入札分 (積月：7月積み)			平成23年6月入札分 (積月：8月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格												
アメリカ	WW	75,550	30,370	31,889	71,587	29,833	31,325	79,365	30,545	32,072	82,058	30,069	31,572	84,605	27,711	29,097
	SH	74,987	36,385	38,204	47,837	34,185	35,894	88,101	35,066	36,819	75,576	35,339	37,106	61,383	32,707	34,342
	DNS	160,422	46,188	48,497	139,439	43,671	45,855	137,963	44,141	46,348	151,497	45,639	47,921	177,206	44,000	46,200
	小計	310,959	39,981	41,980	258,863	38,091	39,996	305,429	37,990	39,890	309,131	38,988	40,937	323,194	37,591	39,471
カナダ	1CW	83,023	43,415	45,586	63,695	39,742	41,729	86,348	43,400	45,570	84,310	44,907	47,152	87,443	40,980	43,029
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オーストラリア	小計	83,023	43,415	45,586	63,695	39,742	41,729	86,348	43,400	45,570	84,310	44,907	47,152	87,443	40,980	43,029
	ASW	70,980	38,005	39,905	77,865	36,348	38,165	92,453	39,805	41,795	82,432	40,920	42,966	112,719	36,522	38,348
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	70,980	38,005	39,905	77,865	36,348	38,165	92,453	39,805	41,795	82,432	40,920	42,966	112,719	36,522	38,348	
計		464,962	40,293	42,308	400,423	38,015	39,916	484,230	39,301	41,266	475,873	40,371	42,390	523,356	37,927	39,823

(注) 上表の詳細は、農林水産省ホームページ「申請・お問い合わせ」[http://www.maff.go.jp/f/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html]、「米管理動定・業務動定」を参照し、次に「調達・入札」の「調達情報・公表事項」を参照し、「契約情報」を参照し、「契約に添付する情報」を参照し、「食料安定供給特別会計」を検索し(アドレス[http://www.maff.go.jp/f/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html])、「米管理動定・業務動定」を参照し、「一般競争入札・指名競争入札(物品役務等)」を検索して輸入小麦に該当する箇所をご覧ください。
(資料：農林水産省総合食料高(食糧貿易課))

—「ソフト & ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたく考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

★編集後記

- 昨年の夏は猛暑であったが、今年の暑さはそれ以上だ。東京は現時点で真夏日、熱帯夜の日数が昨年を上回っている。更に東日本大震災による電力不足を補うため7月から節電が始まったが、夏場の節電が暑さを増幅させている。電力使用ピーク時の対応に家庭での節電は欠く事ができないが、必要とする時間帯に効率よく節電をする効果的な取組みが広く理解されているだろうか。節電が実施されて約20日経過。電力不足の危険予測は出ていない。果たして、家庭の節電はどれだけ効果的であったのか。電力会社等は実績と効果を目に見えて実感できる形で示す必要があるのではないか。節電に取り組んでいる人々にとって、自分を納得させる達成感はストレスを軽減させてくれるのではないか。節電のためエアコンを止め、熱中症等で健康を害している年寄りが多数いるとの情報があるが、真面目な協力者が報われなかった、などということが無いように強く願うところです。
- それにしても、九州の電力会社が仕向けた原発再稼働のやらせメールは、国民の不信感を増幅させ暑い夏を酷暑に引き上げたのではないか。
「通政和人」能登の旧総持寺管長が残した扁額。
人の和は政に通じる。節電協力を強いて願う関係者はこの意を大切にしたいものである。
- しかし、食文化にとっては暑い夏も必要です。夏場の小麦粉製品が好調のようです。幸い消費に必要な水は、全国的に豊富です。消費拡大を期待するところです。製粉業界においてもこの夏を乗り切って、秋以降は大いに弾みをつけたいものです。

小麦粉は 豊かな食事の コンダクター

あなたの豊かな食生活のために

週末も **パン** を囲んで楽しい団欒

さそいあい、いつでも、どこでも、**うどん・そば**

インスタントラーメン
は 世 界 の 食 文 化

希望の一日は **ホットケーキ** から

麺 には旬の味、春・夏・秋・冬

家族で楽しい、みんなでおいしい
ビスケット

パンケーキ なら父さんも、私も、僕も三ツ星級

パン粉 がきめて、おいしいコロッケ・とんかつ

**てんぷら・ギョウザ
ムニエル** はわが家の味

現代に生かそう伝統食品 **焼酎** に **生麴**

(財)製粉振興会
全国小麦粉実需者団体協議会
製粉協会・(協)全国製粉協議会

製粉振興 7月号 (No.535)

発行／平成23年7月20日

編集発行人／落合通人

発行所／財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel.(03) 3666-2712(代表)

<http://www.seifun.or.jp>

Fax.(03) 3667-1883

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載